

(様式第10)

27 病 事 務 第 35 号  
平成 27 年 10 月 1 日

東海北陸厚生局長 殿

公立大学法人 名古屋市立大学  
理事長 郡 健二郎 印

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏 名	公立大学法人 名古屋市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

名古屋市立大学病院
-----------

3 所在の場所

〒 467 - 8602	電話 (052) 851-5511
愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 肝臓内科 3 循環器内科 4 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等 1 消化器外科 2 心臓血管外科 3 小児外科 4 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8 産科 9 婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13 放射線診断科 14 放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 リハビリテーション科
----------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	772床	808床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	253人	184人	400.2人	看護補助者	48人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	14人	15.2人	理学療法士	11人	臨床検査技師	53人
薬剤師	44人	7人	49.6人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	3人	その他	6人
助産師	33人	0人	33.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	758人	33人	784.4人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	17人
准看護師	0人	2人	1.6人	栄養士	0人	その他の技術員	18人
歯科衛生士	1人	1人	1.8人	歯科技工士	1人	事務職員	92人
管理栄養士	9人	3人	11.4人	診療放射線技師	41人	その他の職員	16人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	25人	眼科専門医	13人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	14人	放射線科専門医	19人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	22人
泌尿器科専門医	15人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	19人	救急科専門医	3人
		合計	228人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	672.4人	5.0人	677.4人
1日当たり平均外来患者数	1,712.4人	72.3人	1,784.7人
1日当たり平均調剤数			1,369剤
必要医師数			174人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			41人
必要(准)看護師数			399人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	367.85 m <sup>2</sup>	S造 一部SRC/RC造	病床数	14床	
			人工呼吸装置	有	
			その他の救急蘇生装置	有	
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	246.0 m <sup>2</sup> 台	病床数 15床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	63.0 m <sup>2</sup>		
化学検査室	520.90 m <sup>2</sup>	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) 検体検査システム		
細菌検査室	123.15 m <sup>2</sup>		(主な設備) 微生物検査システム		
病理検査室	221.79 m <sup>2</sup>		(主な設備) 病理標本染色封入システム		
病理解剖室	81.18 m <sup>2</sup>	SRC造	(主な設備) 解剖台、臓器撮影台、滅菌装置		
研究室	193.13 m <sup>2</sup>	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) クリーンベンチ オートクレーブ滅菌装置		
講義室	401.90 m <sup>2</sup>		室数	1室	収容定員 320人
図書室	96.98 m <sup>2</sup>		室数	2室	蔵書数 5,300冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	64.5 %	逆紹介率	58.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数	13,506人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,806人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,703人	
	D：初診の患者の数	23,575人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	超音波気管支鏡下リンパ節生検 (EBUS-TBNA)	取扱患者数	46 人
当該医療技術の概要			
従来非侵襲的なアプローチが困難であった縦隔リンパ節病変に対し、超音波ガイド下に生検を行うことで高い診断率と安全性を実現した。			
医療技術名	蛍光気管支鏡による胸部疾患の診断	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
がん病巣における自家蛍光の減弱性質を利用し、特定波長下に気管支鏡を行うことで通常光では認識困難な気道の上皮内癌病変を高感度に検出する。			
医療技術名	局所麻酔下胸腔鏡による胸膜疾患の診断	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要			
びまん性胸膜疾患による胸水貯留症例に対し、手術に比べ大幅に侵襲を低減して確定診断が可能。			
医療技術名	ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法 (EBUS-GS法)	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要			
従来気管支鏡検査での診断率が不良であった末梢小型病変に対し、細径超音波プローブにガイドシースをかぶせて病変まで誘導し、病変到達を確認する。			
医療技術名	仮想気管支鏡ソフトウェア (ビーエフ ナビ) Bf-NAVI	取扱患者数	22 人
当該医療技術の概要			
CT画像から仮想気管支鏡画像を作成する。3Dが総による対象部位の表示が可能であり、気管支鏡検査室のベッドサイドでアプローチ経路の確認が可能。			
医療技術名	気道過敏性試験 (アストグラフ法)	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要			
メサコリン吸入により気道の過敏性および反応性を診る。喘息の診断や治療効果の目安となる。			
医療技術名	インパルスオッシレーション法 (IOS)	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要			
安静呼吸時に、複数の周波数波を気道内に送り、各周波数ごとの呼吸抵抗などを測定する検査。周波数により中枢気道成分と末梢気道成分を分けて測定が可能。			
医療技術名	誘発喀痰	取扱患者数	150 人
当該医療技術の概要			
高張食塩水 (3%) 吸入により喀痰を採取し、その細胞所見やメディエーター濃度等を検討する。炎症性気道疾患の病態解析に有効			
医療技術名	呼気一酸化窒素濃度	取扱患者数	250 人
当該医療技術の概要			
呼気中の一酸化窒素濃度を測定することにより、喘息など好酸球性気道炎症の存在が推定可能。病態解明や治療効果判定への応用が期待される。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植療法	取扱患者数	14 人
当該医療技術の概要			
主に、初発の多発性骨髄腫および再発性悪性リンパ腫を対象とし、大量化学療法併用の自家末梢血幹細胞移植療法			
医療技術名	同種血縁および非血縁者間造血幹細胞移植療法	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要			
難治性の白血病、リンパ腫や重症再生不良性貧血患者を対象としたHLA一致もしくは一部不一致ドナーを用いた、血縁および非血縁者間造血幹細胞移植療法			
医療技術名	十二指腸十二指腸吻合術 (新生児)	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
新生児の十二指腸閉鎖症に対する、十二指腸十二指腸ダイヤモンド吻合術			

医療技術名	肝門部空腸吻合術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
乳児の胆道閉鎖症に対するKasai手術			
医療技術名	胸腔鏡下前縦隔腫瘍切除術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
前縦隔腫瘍は通常胸骨正中切開を用いて手術するが、胸腔鏡を用いることで前縦隔腫瘍を胸骨を切開せずに切除できる。			
医療技術名	胸膜肺全摘術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
悪性胸膜中皮腫に対して、胸膜肺全摘術を行い、横隔膜を人工物で再建する。			
医療技術名	胸腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
周辺臓器浸潤を伴う悪性胸腺腫瘍に対して、浸潤臓器を含めた拡大切除再建を行う。			
医療技術名	エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対する S-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験 POTENT試験	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要			
エストロゲン受容体陽性かつ HER2 陰性の原発性乳癌を対象とし、標準的な術後内分泌療法単独に比べて、標準的な術後内分泌療法とS-1 を併用することにより、再発抑制効果が高まることをランダム化比較試験により検証する。			
医療技術名	骨きり術を併用した脊柱変形手術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
脊椎手術でも難易度が極めて高く、高度な技術を要するpedicle subtraction osteotomy を用いた成人脊柱変形手術を行う			
医療技術名	脊椎側弯症手術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
成長期に脊椎が彎曲して変形する側弯症に対して、曲がりを矯正して固定する手術			
医療技術名	脊椎内視鏡手術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用いて、小さい皮膚切開で骨や靭帯を削り、または、椎間板ヘルニアを切除して神経の圧迫を取り除く手術			
医療技術名	大腿骨頭回転骨切術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
大腿骨頭壊死症に対して、大腿骨頸部で骨切を行い、大腿骨頭を回転して温存する手術			
医療技術名	小児股関節脱臼に対する観血的脱臼整復（広範囲展開法）	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
股関節周囲の脱臼整復障害因子を手術的に全て取り除き、脱臼を観血的に整復する手術			
医療技術名	3次元大腿骨形状解析による転子下減念短縮骨切を併用した人工股関節置換術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
高度前捻異常や高位脱臼を伴った股関節に対し、コンピューター3次元形状解析を行い、適切な骨切りの位置、大きさ、減念の量を算出したうえこの手術方法に最適化して設計された人工関節を用いた人工股関節置換術。			
医療技術名	前十字靭帯、後十字靭帯を温存した人工膝関節置換術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
従来切除せざるを得なかった前十字靭帯を温存することにより、より正常膝に近い人工膝関節置換術を目指す。			
医療技術名	抗リン脂質抗体症候群合併妊娠に対する抗凝固療法	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要			
抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法（ヘパリン・アスピリン）により治療する。			

医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	300 人
当該医療技術の概要			
習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要			
重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要			
妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	胎児異常の出生前診断	取扱患者数	1,560 人
当該医療技術の概要			
胎児異常の出生前診断は困難で、専門医による診断が必要である。また診断後のカウンセリングにも専門知識が必要である。			
医療技術名	異常胎児妊娠妊婦の管理	取扱患者数	60 人
当該医療技術の概要			
胎児異常妊娠は合併症のみで無く、胎児の状態の把握も重要である。			
医療技術名	子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要			
広汎子宮全摘術は専門性の高い婦人科医のみが実施できる手術である。また術後合併症の頻度も高い。			
医療技術名	子宮癌に対する子宮温存療法	取扱患者数	35 人
当該医療技術の概要			
早期子宮癌は細心の注意を払った治療をすることにより、子宮を温存することができる。このことにより治療後の妊娠を望む事が出来る。			
医療技術名	精巣内精子回収法（TESE）により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要			
精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前診断	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要			
習慣流産の原因の1つである染色体相互転座は着床前診断することが出来る。			
医療技術名	脈絡膜新生血管、黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体内注射	取扱患者数	1,184 人
当該医療技術の概要			
加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、および、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対して抗VEGF薬を硝子体内に注射して、新生血管を縮小あるいは浮腫の改善を測る。			
医療技術名	加齢黄斑変性に対する光線力学療法	取扱患者数	38 人
当該医療技術の概要			
光感受性物質を静脈内投与したのちに、レーザー光線をあて、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。			

医療技術名	黄斑円孔に対する内境界膜剥離術	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要			
硝子体手術で後部硝子体剥離を作成し、内境界膜剥離を作成し、ガスに置換する。			
医療技術名	増殖硝子体網膜症に対する増殖硝子体網膜症手術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
難治性網膜剥離である増殖硝子体網膜症に対し、輪状締結を行い、硝子体および増殖膜を切除、ガスあるいはシリコンオイルで眼内を置換する。			
医療技術名	インプラント緑内障手術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要			
他の治療法で眼圧コントロール不良の緑内障患者に対して、インプラントを用いた濾過手術を施行する			
医療技術名	糖尿病黄斑浮腫に対する選択的網膜光凝固	取扱患者数	35 人
当該医療技術の概要			
糖尿病黄斑浮腫にたいして、インドシアニングリーン蛍光眼底造影を施行し、原因となる毛細血管瘤を選択的に光凝固する			
医療技術名	骨導補聴器うめこみ術	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要			
骨導補聴器のうめこみとその調整			
医療技術名	人工内耳うめこみ術	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要			
人工内耳のうめこみとその調整			
医療技術名	内視鏡唾石摘出術	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要			
耳下腺、顎下腺唾石を内視鏡により摘出する			
医療技術名	喉頭形成術、軟骨転移術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
一側性反回神経麻痺に対し音声改善の為、披裂軟骨を内転させ、声帯を内方へ圧迫する手術 最大発声時間が、3秒程度から10秒以上にまで改善する			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍手術	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要			
口腔、鼻副鼻腔、咽頭、喉頭、唾液腺、甲状腺に発生した悪性腫瘍に対する広汎切除術であり、広汎切除後の欠損に対する再建術も含む。			
医療技術名	鼻内拡大副鼻腔手術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要			
前頭頭や副鼻腔に隣接する部位に発生した腫瘍に対する鼻内手術である。			
医療技術名	聴神経腫瘍摘出術	取扱患者数	25 人
当該医療技術の概要			
聴神経腫瘍に対して、機能温存手術を行う。			
医療技術名	ロボット支援腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	102 人
当該医療技術の概要			
2012年4月より保険適応になり週4名の手術を行い、大きなトラブル無く施行している。前立腺周囲の解剖が従来の腹腔鏡より繊細にわかり、より高度な手術を可能にしている			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
ロボットの特製を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全かつ迅速に手術が行える。			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要			
ロボットの特製を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全・確実に手術が行える。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎・腎および腎尿管全摘術	取扱患者数	37 人
当該医療技術の概要			
泌尿器科関連学会による技術認定が認められている手術。技術認定医が指導を行い、順次認定を指導している。			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡下手術において経腸間膜的に行って全国でも例をみない手法を用いている。特殊な方法であるため、解剖としての知識も必要になり、またこれを開腹手術あるいは他の腹腔鏡下手術の研修にもなっている。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	43 人
当該医療技術の概要			
小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である。小児泌尿器科領域では全国でも稀な施設である。細かな縫合技術が必要になるため、他の腹腔鏡手術への技術応用が可能になる。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要			
先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である腹腔鏡手術をロボットで行った、日本で唯一行える手術である。細かな縫合技術が必要であるが、ロボットの特徴をまさにいかせる手術である。			
医療技術名	尿道下裂形成術	取扱患者数	49 人
当該医療技術の概要			
全国一の手術経験を持っている。拡大鏡を用いての繊細かつ高度な技術を要する。繊細な手術になるため、形成術全般に対する知識が深まる。			
医療技術名	顕微鏡下精子採取術	取扱患者数	39 人
当該医療技術の概要			
男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱全摘除術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡下手術においてより低侵襲な手術。特殊な器具やカメラを時に必要となりその使用により、他の腹腔鏡手術に技術と知識が応用できる。			
医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術	取扱患者数	22 人
当該医療技術の概要			
高位結紮術と低位結紮術が存在する。その中でも顕微鏡下に行う低位結紮術は高度な技術と時間がかかるが、その代わりに再発が少ないメリットがある。			
医療技術名	不安障害に対する認知行動療法	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要			
パニック障害や社交不安障害患者に、まず呼吸コントロール法や注意訓練法、認知再構成法といった不安をコントロールする技法を習得してもらい、その後不安や恐怖の対象への段階的なエクスポージャー法を施行して、回避等の症状低減を図る。			
医療技術名	慢性めまいに対する新世代認知行動療法（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要			
慢性めまい（心因性めまい）の患者に対して、アクセプタンス、観察者としての自己、脱フュージョン、現在との接触、価値、コミットされた行為、というアクセプタンス&コミットメント・セラピーのコアプロセスを体験的に習得してもらい、心理的柔軟性を高めることで、QOLの向上を目指し、結果として慢性めまい症状の低減を図る。			
医療技術名	児童外来	取扱患者数	1,440 人
当該医療技術の概要			
児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。			

医療技術名	電気けいれん療法	取扱患者数	23 人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病などに対しては、修正型電気けいれん療法（週2回ずつ約10回を1クールとして施行）を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	覚醒下開頭脳腫瘍摘出術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 開頭を行った後、患者を覚醒させ、脳表面の電気刺激を行いながら、患者の指示動作ができない部位を脳機能がある部位として確認しながら、脳腫瘍の摘出範囲を調べて脳機能を温存しながら、脳腫瘍を摘出する手術である。			
医療技術名	耳鼻科との合同手術 聴神経腫瘍摘出術、真珠腫摘出術	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要 耳鼻科と合同で脳神経モニタリングを行いながら、顔面神経、聴神経の機能温存しながら腫瘍摘出を行う手術である			
医療技術名	脳深部刺激装置埋め込み術	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要 脳深部刺激装置をMRI定位手術装置を用いて微小電極で脳深部の電気信号を確認しながら、正確な位置に埋め込む手術である			
医療技術名	硬膜動静脈瘻血管内塞栓術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 硬膜動静脈瘻を血管撮影検査でAV-shuntの部位を正しく診断し、血管内塞栓術により、AV-shunt部位を遮断する手術である			
医療技術名	ロス手術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 大動脈弁狭窄症に対する自己肺動脈組織による大動脈基部置換術で、人工弁置換術とは異なり自己肺動脈弁移植であるため成長を見込むことができ小児の大動脈弁狭窄症には非常に有効な手術であるが、手術手技が煩雑であるため本邦においては18歳未満症例では年間20～30例程度の手術件数にとどまる難易度の非常に高い手術である。			
医療技術名	ジャテーン術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 大血管転位症に対する手術で、大動脈と肺動脈を転換し冠動脈移植を行う手術であるが、生後2週間以内の新生児期早期に手術介入が必要となることが多いため細い冠動脈の移植に繊細な技術を要し難易度の高い手術である。			
医療技術名	ハイドロコイルを用いた肺動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 肺動静脈奇形のコイル塞栓術において、術後の再開通率低減に寄与する、親水性ポリマーをコーティングし塞栓力を高めたハイドロコイルを用いて治療を行う。			
医療技術名	腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 金属製の骨組みに支えられた人工血管を、周辺組織を外科的に切開することなく動脈瘤の長さの範囲内に適切に留置する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	88 人	・膿疱性乾癬	22 人
・多発性硬化症	65 人	・広範脊柱管狭窄症	0 人
・重症筋無力症	193 人	・原発性胆汁性肝硬変	81 人
・全身性エリテマトーデス	474 人	・重症急性膵炎	67 人
・スモン	0 人	・特発性大腿骨頭壊死症	0 人
・再生不良性貧血	42 人	・混合性結合組織病	65 人
・サルコイドーシス	310 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	16 人	・特発性間質性肺炎	33 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	259 人	・網膜色素変性症	36 人
・特発性血小板減少性紫斑病	77 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	37 人	・肺動脈性肺高血圧症	116 人
・潰瘍性大腸炎	249 人	・神経線維腫症	35 人
・大動脈炎症候群	17 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	2 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2 人
・天疱瘡	51 人	・慢性血栓性肺高血圧症	60 人
・脊髄小脳変性症	30 人	・ライソゾーム病	38 人
・クローン病	60 人	・副腎白質ジストロフィー	8 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	211 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	0 人	・脊髄性筋萎縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	366 人	・球脊髄性筋萎縮症	0 人
・アミロイドーシス	22 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0 人
・後縦靭帯骨化症	0 人	・肥大型心筋症	0 人
・ハンチントン病	0 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	38 人	・ミトコンドリア病	0 人
・ウェゲナー肉芽腫症	60 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	50 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	20 人	・黄色靭帯骨化症	0 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	0 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料(一般7:1, 精神10:1)	・ 総合周産期特定集中治療室管理料1・2
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 救急医療管理加算	・ 小児入院管理料2
・ 超急性期脳卒中加算	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 歯科外来診療環境体制加算
・ 診療録管理体制加算2	・
・ 急性期看護補助体制加算3	・
・ 看護職員夜間配置加算	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1・2	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊婦管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 新生児特定集中治療室退院調整加算1・2・3	・
・ 救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・ データ提出加算	・
・ 救命救急入院料1	・
・ 特定集中治療室管理料3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 植込型除細動器移行期加算	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 高度難聴指導管理料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 神経学的検査
・ がん患者指導管理料 1	・ 補聴器適合検査
・ がん患者指導管理料 3	・ ロービジョン検査判断料
・ 外来緩和ケア管理料	・ コンタクトレンズ検査料 1
・ 院内トリアージ実施料	・ 小児食物アレルギー負荷試験
・ 外来放射線放射線照射診療料	・ 内服・点滴誘発試験
・ ニコチン依存症管理料	・ センチネルリンパ節生検 (単独)
・ 地域連携診療計画管理料	・ センチネルリンパ節生検 (併用)
・ がん治療連携計画策定料	・ C T透視下気管支鏡検査加算
・ 薬剤管理指導料	・ 画像診断管理加算 1
・ 医療機器安全管理料 1	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 医療機器安全管理料 2	・ 冠動脈C T撮影加算
・ がん治療連携管理料	・ 大腸C T撮影加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 心臓MR I 撮影加算
・ 持続血糖測定器加算	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸同定検査	・ 外来化学療法加算 1
・ HPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ測定)	・ 無菌製剤処理料
・ 検体検査管理加算 (I)	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
・ 検体検査管理加算 (IV)	・ 運動器リハビリテーション料 (I)
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ がん患者リハビリテーション料
・ 植込型心電図検査	・ 歯科口腔リハビリテーション料 2
・ 胎児心エコー法	・ 認知療法・認知行動療法 1, 2
・ ヘッドアップティルト試験	・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・センチネルリンパ節生検	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節生検	・
・乳がんセンチネルリンパ節生検	・
・インプラント義歯	・
・早期悪性腫瘍大調粘膜下層剥離術	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	一週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 19 例 / 剖検率 3.6 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多学年参加型教育プログラムとIT遠隔指導による新たな地域医療教育手法の開発	兼松孝好	総合内科・総合診療科	¥4,160,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
腫瘍壊死因子前駆体と産生酵素に介在する膜蛋白機能解析と新規抑制法の開発	城 卓志	消化器内科	¥1,600,000	補 文部科学省
食道上皮に存在する酸感受性機械受容体イオンチャネルの機能解析	神谷 武	消化器内科	¥1,900,000	補 文部科学省
癌の高感度診断および治療を目指した次世代光線療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥1,000,000	委 公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金
新規糖鎖連結クロリンを用いたPDTによる癌細胞死誘導効果の検討	片岡 洋望	消化器内科	¥850,000	委 旭化成イーマテリアルズ株式会社
癌間質の腫瘍会合性マクロファージを標的とした糖連結光機能分子による光治療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥1,000,000	補 文部科学省
食道がん化学放射線療法後局所遺残再発例に対するタラポルフィリンナトリウム（レザフィリン）及び半導体レーザー（PDレーザ）を用いた光線力学療法の医師主導治験	片岡 洋望	消化器内科	¥1,950,000	補 厚生労働省
Annexin A2を分子標的にした新規抗TNF療法の開発	谷田 諭史	消化器内科	¥1,500,000	補 文部科学省
消化器癌におけるATM発現とPARP阻害剤感受性の検討	久保田 英嗣	消化器内科	¥1,200,000	補 文部科学省
全エクソンシーケンスによる大腸癌の染色体不安定性の原因となる新規遺伝子の同	澤田 武	消化器内科	¥1,800,000	補 文部科学省
胃型化・腸型化の分子メカニズム解明と幹細胞をターゲットとした分化誘導療法の開発	溝下 勤	消化器内科	¥1,700,000	補 文部科学省
糖鎖連結クロリンによる新規光線力学的療法の腫瘍免疫増強メカニズムの解明と臨床応用	田中 守	消化器内科	¥500,000	補 文部科学省
がん幹細胞を標的とした糖鎖連結クロリンによる新規光線力学的療法のメカニズムの解明	田中 守	消化器内科	¥1,400,000	補 文部科学省

新規光線力学的療法の High-Mobility Group Box-1 (HMGB1) と Calreticulin (CRT) を介した腫瘍抑制効果のメカニズムの解析	田中 守	消化器内科	¥500,000	委	公益財団法人愛知県がん研究振興会
肝硬変への進展を阻止する新しい観点からの治療法の開発	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	¥2,000,000	補	文部科学省
慢性ウイルス性肝炎の病態把握 (重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測) のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	¥36,000	補	厚生労働省
肝組織に存在する4種類のB型肝炎ウイルスRNA定量測定系の開発	藤原 圭	肝・膵臓内科	¥1,500,000	補	文部科学省
胆管癌に対するFISH法を用いた新規内視鏡的診断方法とバイオマーカーの確立	内藤 格	肝・膵臓内科	¥1,400,000	補	文部科学省
「膵管内乳頭腫瘍における、細胞診標本を用いた Fluorescence in situ Hybridization 法の臨床応用	宮部 勝之	肝・膵臓内科	¥500,000	委	公益財団法人日本膵臓病研究財団
「胆道腫瘍における Fluorescence in situ Hybridization 法を中心とした染色体・遺伝子検討とその臨床応用	宮部 勝之	肝・膵臓内科	¥250,000	委	公益財団法人愛知県がん研究振興会
抗菌薬関連腸炎の臨床解析と感染対策の検討	中村 敦	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥1,500,000	補	文部科学省
医療機関における感染制御に関する研究	中村 敦	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥400,000	補	厚生労働省
小細胞肺癌におけるネスチンの臨床的意義および治療標的としての研究	前野 健	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥1,560,000	補	文部科学省
小細胞肺癌における個別化医療を目指して：アムルピシン治療バイオマーカーの解明	高桑 修	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥1,200,000	補	文部科学省
咳喘息と典型的喘息の病値生理学的特徴と予後決定因子に関する包括的研究	新実彰男	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	¥990,000	補	文部科学省
不全心における心臓交感神経pre-synapse機能のPETによる検討	大手 信之	循環器内科	¥1,700,000	補	独立行政法人日本学術振興会
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究	大手 信之	循環器内科	¥250,000	委	国立循環器センター
J-RHYTHM Registry2	大手 信之	循環器内科	¥136,000	委	公益財団法人日本心臓財団
東日本大震災が心拍変動に与える影響：ホルター心電図大規模データベースを用いた検討	福田 英克	循環器内科	¥80,000	補	独立行政法人日本学術振興会

冠動脈内皮障害の包括的早期診断を目指したmicroRNA解析による探索的研究	杉浦 知範	循環器内科	¥300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
膵臓癌におけるBcl-xLとMcl-1の機能解明とsiRNAを用いた臨床応用	高橋 広城	消化器・一般外科	¥1,200,000	補	文部科学省
臨床応用を目的とした膵癌血管新生におけるPKDシグナルの分子生物学的役割の検討	松尾 洋一	消化器・一般外科	¥3,400,000	補	文部科学省
臨床応用を目的としたゲムシタビン耐性膵癌に対する抗CXCR2抗体療法の検討	宮井 博隆	消化器・一般外科	¥1,300,000	補	文部科学省
食道癌におけるポストゲノムシーケンスの変異遺伝子機能解析	木村 昌弘	消化器・一般外科	¥1,500,000	補	文部科学省
食道癌におけるmicroRNAの機能解析	石黒 秀行	消化器・一般外科	¥1,200,000	補	文部科学省
コネキシン遺伝子をターゲットとした食道癌治療の可能性	田中 達也	消化器・一般外科	¥1,200,000	補	文部科学省
FISH/CISHを用いたRET遺伝子関連異常検索	藤井 義敬	呼吸器外科	¥3,300,000	補	日本学術振興会
リアルタイムPCRを用いたチロシンキナーゼ遺伝子変異検索	佐々木 秀文	呼吸器外科	¥500,000	補	日本学術振興会
胸腺悪性腫瘍における次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝子変異解析	設楽 将之	呼吸器外科	¥1,400,000	補	日本学術振興会
肺癌におけるNTRK遺伝子発現と薬剤感受性の検討	立松 勉	呼吸器外科	¥1,500,000	補	日本学術振興会
心奇形患児の脳機能障害を回避する選択的脳灌流法の開発と成人への応用	三島 晃	心臓血管外科	¥2,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
神経芽腫におけるアダプター蛋白質Shfの機能解析と治療への応用	高木 大輔	小児・移植外科	¥900,000	補	日本学術振興会
マイクロRNAを用いたトリプルネガティブ乳癌に対する新規治療薬の開発	遠山 竜也	乳腺内分泌外科	¥1,100,000	補	日本学術振興会
遺伝子多型・血清バイオマーカーによるエストロゲン依存性乳癌罹患リスクモデルの構築	吉本 信保	乳腺内分泌外科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
乳癌におけるタキサン耐性機序のゲノムワイド解析と耐性克服への応	遠藤 友美	乳腺内分泌外科	¥1,900,000	補	日本学術振興会
乳癌に対する新規ホルモン療法薬の開発を目的としたチロシンキナーゼノックダウン療法	浅野 倫子	乳腺内分泌外科	¥800,000	補	日本学術振興会

滑膜組織でのアクアポリン機能制御により関節水症の治療法の開発をめざす	大塚 隆信	整形外科	¥1,690,000	補	文部科学省
骨代謝全体における低分子量熱ショック蛋白質の役割の検討	福岡 宗良	整形外科	¥1,560,000	補	文部科学省
グリオスタチンは関節リウマチの新規治療ターゲットとなりうる	永谷 祐子	整形外科	¥1,690,000	補	文部科学省
抗癌剤耐性や肺転移形成と細胞周期との関連—Fucci導入肉腫細胞を用いた解析	木村 浩明	整形外科	¥1,040,000	補	文部科学省
ジャイロスコープを使用した膝前十字靭帯損傷に対するPivot-shift testの定量評価	村瀬 熱紀	整形外科	¥500,000	委	一般社団法人日本整形外科学会
超音波せん断波エラストグラフィを用いた大学野球選手の肩関節後下方関節包の定量的弾性評価	武長 徹也	整形外科	US\$2,000.00	委	公益財団法人豊秋奨学会
骨代謝全体における低分子量熱ショック蛋白質の役割の検討	福岡 宗良	整形外科	¥4,000,000	補	独立行政法人日本学術振興会
不育症における遺伝学的原因の探索	杉浦 真弓	産科婦人科	¥1,600,000	補	文部科学省
着床期子宮内膜血流量の新規評価法の確立及び不育症の原因解明と治療効果判定への応用	尾崎 康彦	産科婦人科	¥1,000,000	補	文部科学省
胎児染色体異常の脱落膜における母児間免疫応答と新生児血管制御因子の関与	鈴森 伸宏	産科婦人科	¥1,200,000	補	文部科学省
卵子の加齢変化に対する顆粒膜細胞の作用解明と機能評価方法の開発および治療への応用	服部 幸雄	産科婦人科	¥1,500,000	補	文部科学省
反復流産患者の出産率向上を目指した心理社会的治療法の開発	杉浦 真弓	産科婦人科	¥100,000	補	文部科学省
侵襲性新生児GBS感染症予防のための母児感染予防ケアの開発と評価	佐藤 剛	産科婦人科	¥50,000	補	文部科学省
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究	杉浦 真弓	産科婦人科	¥1,500,000	補	厚生労働省
発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ(PKD)の重症度評価及びQOLに関する研究	齋藤 伸治	小児科	¥100,000	補	厚労省科研費
国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	齋藤 伸治	小児科	¥1,250,000	補	厚労省科研費
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウムの治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療薬開発の試み-	齋藤 伸治	小児科	¥500,000	補	厚労省科研費

Gillespie症候群の原因遺伝子同定と病態解明	齋藤 伸治	小児科	¥800,000	補	日本学術振興会 (文科省科研費)
発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ(PKD)の発症メカニズムの解明及び新規治療薬の開発	齋藤 伸治	小児科	¥1,000,000	委	厚労省科研費
がん薬物療法の個別適正化研究	齋藤 伸治	小児科	¥363,637	委	理化学研究所
網羅的遺伝子解析によるアンジェルマン症候群および類縁疾患のてんかん発症機構の解明	齋藤 伸治	小児科	¥557,934	委	てんかん治療研究振興財団
精神・神経疾患等のバイオリソース・レポジトリの診療及び研究における有効活用の研究	齋藤 伸治	小児科	¥1,000,000	委	国立精神・神経医療研究センター
思春期発来に関与する遺伝子の網羅的解析	水野 晴夫	小児科	¥2,703,769	補	日本学術振興会 (文科省科研費)
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	杉浦 時雄	小児科	¥200,000	補	厚労省科研費
HTLV-I母子感染予防に関する研究：HTLV-I抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	杉浦 時雄	小児科	¥500,000	補	厚労省科研費
新生児・乳児胆汁うっ滞に対する新しい診断ストラテジーの確立	杉浦 時雄	小児科	¥2,000,000	補	日本学術振興会 (文科省科研費)
小児期発症の神経筋疾患における心拍変動解析の臨床応用	服部 文子	小児科	¥750,000	補	日本学術振興会 (文科省科研費)
筋ジストロフィーにおける呼吸管理を病院と在宅との連携の視点から確立する	服部 文子	小児科	¥500,000	委	国立精神・神経医療研究センター
小児のoccult HBV感染の病態解明と感染予防への応用	伊藤 孝一	小児科	¥800,000	補	日本学術振興会 (文科省科研費)
抗原特異的T細胞に注目したスギ舌下免疫療法の作用機序の解明	野村 孝泰	小児科	¥1,000,000	補	日本学術振興会 (文科省科研費)
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	小椋 祐一郎	眼科	¥500,000	補	国立保健医療科学院
抗体および生理活性物質の眼内ドラッグデリバリーシステムの開発	安川 力	眼科	¥1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性病態解明のための網膜色素上皮細胞のシート培養の確立	加藤 亜紀	眼科	¥910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
網膜色素上皮でのリポ蛋白・アミロイドβの機能の解明と加齢黄斑変性の治療への応用	佐藤 里奈	眼科	¥1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会

培養網膜色素上皮シートへのROCK inhibitor 応用 シート安定化と移植へ	臼井 英晶	眼科	¥1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アンプリコンベクターを用いた顔面神経麻痺の新たな治療の開発	村上 信五	耳鼻いんこう科	¥550,000	補	文部科学省
アレルギー性鼻炎が睡眠障害に及ぼす発生機序の解明と新規治療による研究	中山 明峰	耳鼻いんこう科	¥650,000	補	文部科学省
s i R N Aを用いた鼻アレルギーに対する新しい点鼻局所免疫療法の開発	鈴木 元彦	耳鼻いんこう科	¥650,000	補	文部科学省
鼻粘膜由来組織幹細胞による末梢神経再生の研究	濱島 有喜	耳鼻いんこう科	¥700,000	補	文部科学省
難治性中耳炎副鼻腔炎に対し s i R N Aにより粘膜杯細胞化生を制御する新治療法の開発	中村 善久	耳鼻いんこう科	¥2,449,000	補	文部科学省
DFNB93原因遺伝子を通じた有毛細胞特異的なカルシウムシグナリングの機能解析	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	¥500,000	補	文部科学省
耳下腺癌の低酸素環境における転移浸潤メカニズムの研究	伊地知 圭	耳鼻いんこう科	¥2,200,000	補	文部科学省
単純ヘルペスウイルス感染によるマウス顔面神経、聴神経障害とアポトーシスの関連	山野 耕嗣	耳鼻いんこう科	¥1,300,000	補	文部科学省
鼻炎マウスにおける嗅覚障害の治療	尾崎 慎哉	耳鼻いんこう科	¥1,000,000	補	文部科学省
カルシウムチャネル病の新規治療系の開発	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	¥1,200,000	委	ブレインサイエンス振興財団
Cav2.1の薬理的制御を目指した新規化合物の探索とその機構の解析	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	¥2,000,000	委	武田科学振興財団
慢性ふらつき・めまい患者に対するリハビリテーション効果を高めるための動作測定記録装置の開発	蒲谷 嘉代子	耳鼻いんこう科	¥209,000	補	特別研究奨励費(名古屋市立大学)
環境因子と皮膚老化・皮膚疾患 - AhRを中心とした分子メカニズム解析	森田 明理	皮膚科	¥4,940,000	補	文部科学省
胎児メラノサイトの部位特異性に関する研究	中村 元樹	皮膚科	¥4,160,000	補	文部科学省
マウス真皮におけるメラノサイトの遊走と分化解析	加藤 裕史	皮膚科	¥4,160,000	補	文部科学省
乾癬の病態における制御性T細胞とIL-17産生細胞の役割	西田 絵美	皮膚科	¥3,770,000	補	文部科学省

マクロファージによる尿路結石防御メカニズムの解明と溶解療法への臨床応用	田口 和己	泌尿器科	¥500,000	委	一般社団法人日本泌尿器科学会
食習慣のメタボ化におけるマクロファージ表現型の変化に着目した尿路結石治療法の開発	田口 和己	泌尿器科	¥1,000,000	委	公益財団法人三島海雲記念財団
anti-inflammatory (M2) macrophages eliminate renal crystals by phagocytosis	田口 和己	泌尿器科	¥252,000	委	公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金
インスリン抵抗性に着目した腎結石予防法の開発	安藤 亮介	泌尿器科	¥300,000	委	公益財団法人愛知腎臓財団
ホルモン療法抵抗性前立腺癌における細胞間連絡機構の解明と治療法への応用	内木 拓	泌尿器科	¥250,000	委	公益財団法人愛知県がん研究振興会
炎症性サイトカインIL-18が前立腺間質肥大を誘導するメカニズムの解明	濱川 隆	泌尿器科	¥300,000	委	公益財団法人日東学術振興財団
腎結石による慢性腎臓病の発症リスク	安藤 亮介	泌尿器科	¥200,000	委	公益財団法人豊秋奨学会
FACSを用いたES細胞から腎前駆細胞を選択的に分化誘導する腎再生メカニズムの解明と再生医療への応用	中根 明宏	泌尿器科	¥1,500,000	委	公益財団法人母子健康協会
精巣がんにおける幹細胞の形質変化の解明と新規細胞株を用いたエピゲノム創薬への応用	水野 健太郎	泌尿器科	¥2,330,000	補	文部科学省
細胞間輸送機構を標的としたホルモン療法抵抗性前立腺癌の治療法確立に向けた基礎的研究	内木 拓	泌尿器科	¥2,100,000	補	文部科学省
炎症を介した前立腺肥大発症メカニズムにおけるTSP-1の発現とその機能解析	佐々木 昌一	泌尿器科	¥1,700,000	補	文部科学省
ゲノムワイド疾患関連遺伝子解析による尿路結石の再発診断マーカー確立	金本 一洋	泌尿器科	¥2,690,000	補	文部科学省
アディポネクチンによる腎結石抑制メカニズムの解明と治療への応用	藤井 泰普	泌尿器科	¥2,340,000	補	文部科学省
膀胱がんに対する磁性ナノ粒子を用いた温熱治療の開発とその治癒メカニズムの解明	小林 大地	泌尿器科	¥2,470,000	補	文部科学省
新規ヒストンメチル化修飾薬NCL1による前立腺癌治療法確立のための基礎的研究	恵谷 俊紀	泌尿器科	¥2,300,000	補	文部科学省
浸潤性膀胱がん発生に関わるUQCRBをターゲットとした治療法の開発	山田 健司	泌尿器科	¥1,570,000	補	文部科学省
難治性うつ病患者家族への複合家族心理教育の効果～RCTを用いた研究～	竹内 浩	精神科	¥100,000	補	文部科学省

CBTコンピューターゲームSPARXの思春期うつ病予防の効果とその脳機能メカニズム	山田 敦朗	精神科	¥200,000	補	文部科学省
進行・再発がん患者の意思決定を支えるウェブツールの開発	内田 恵	精神科	¥500,000	補	文部科学省
家族・医療者の考える終末期せん妄の治療とケアのゴールを調査し、終末期せん妄を評価する為の尺度を作成する研究	内田 恵	精神科	¥500,000	補	公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
強迫性障害におけるメタ認知の神経基盤解明とメタ認知的介入に関する統合的研究	橋本 伸彦	精神科	¥600,000	補	文部科学省
慢性めまいに対する認知行動療法プログラムの開発と長期的治療効果の検証	近藤 真前	精神科	¥1,200,000	補	文部科学省
社会不安障害に対する認知行動療法の脳科学的基盤の解明：fMRIによるアプローチ	川口 彰子	精神科	¥700,000	補	文部科学省
パニック障害併存症に対する認知行動療法の効果予測因子	小川 成	精神科	¥1,300,000	補	文部科学省
被災地に展開可能ながん住宅緩和医療システムの構築に関する研究	明智 龍男	精神科	¥3,500,000	補	厚生労働省
精神腫瘍学の均てん化のための研究	明智 龍男	精神科	¥400,000	委	独立行政法人国立がんセンター病院
致命的疾患の再発・転移の不安、恐怖の評価法の確立および新規心理学的介入方法の開発	明智 龍男	精神科	¥1,800,000	補	文部科学省
反復流産患者の出産率向上を目指した心理社会的治療法の開発	明智 龍男	精神科	¥100,000	補	文部科学省
人材養成事業（がん等重篤患者の心のケア推進事業）	明智 龍男	精神科	¥1,311,550	委	愛知県
第39回がんその他の悪性新生物研究助成	明智 龍男	精神科	¥500,000	補	公益財団法人愛知県がん研究振興会
水のターンオーバーからみた髄液産生吸収機構の解明と非侵襲的水頭症診断への応用	間瀬光人	脳神経外科	¥1,900,000	補	文部科学省
MicroRNAプロファイリングによる頸動脈石灰化粥腫の安定化機構の解明	片野広之	脳神経外科	¥1,200,000	補	文部科学省
高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究	山田和雄	脳神経外科	¥600,000	補	厚生労働省

脳卒中高リスク群の診断及び治療による循環器疾患制圧に関する研究	山田和雄	脳神経外科	¥2,100,000	補	厚生労働省
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	西尾 実	脳神経外科	¥350,000	補	厚生労働省
下垂体濾胞星細胞を用いたモデルラットの脊髄損傷再生治療	和田郁雄	リハビリテーション科	¥3,900,000	補	厚生労働省
安全かつ強固な新しい腰仙椎固定術式の開発と難治性強度脊柱変形への学際的挑戦	水谷 潤	リハビリテーション科	¥4,100,000	補	独立行政法人日本学術振興会
平成25年度理化学研究所及び東海ゴム工業(株)で開発している介護ロボットによる介護動作の臨床的検証	水谷 潤	リハビリテーション科	¥1,090,000	委	・理化学研究所 ・東海ゴム工業(株)
パーキンソン病の姿勢障害に対する経脊髄磁気刺激を併用した新たな治療法の確立	植木美乃	リハビリテーション科	¥1,000,000	委	公益財団法人磁気健康科学研究振興財団
MR I によるアルツハイマー病の病態評価系の開発と、その臨床への応用	植木美乃	リハビリテーション科	¥1,700,000	委	中部電力利用基礎研究振興財団
神経回路の機能的成熟に与るニューロン・グリア相関ダイナミズムの時空間解析	植木美乃	リハビリテーション科	¥400,000	補	文部科学省
神経幹細胞に着目した脳梗塞後の運動学習による脳機能再建機構の解明	植木美乃	リハビリテーション科	¥460,000	補	文部科学省
C型肝炎の新規診断法や新規治療法を開発するためのゲノムワイド関連解析の手法を用いた宿主因子の解析に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥30,800,000	補	厚生労働省
B型肝炎ウイルスの持続感染を再現する効率的な培養細胞評価系の開発に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥61,240,000	補	厚生労働省
iPS細胞を活用したヒトキメラマウス肝炎発症モデルの開発とその臨床応用	田中 靖人	中央臨床検査部	¥61,240,000	補	日本学術振興会
小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥2,000,000	委	厚生労働省
小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	井上 貴子	中央臨床検査部	¥300,000	補	厚生労働省
血液がん患者のQOL工場を目的とする、新規多職種協働ケアプログラムの開発	奥山 徹	緩和ケア部	¥1,100,000	補	文部科学省
在宅支援力の深化をめざした看護職IPW促進のためのアクションリサーチ	菅野 康二	緩和ケア部	¥240,000	補	文部科学省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	赤津 裕康	総合内科・総合診療科	Enhanced vaccination effect against influenza by prebiotics in elderly patients receiving enteral nutrition	Geriatr Gerontol Int. 2015 Jan 22
2	城 卓志	消化器内科	The preventive effects of low-dose enteric-coated aspirin tablets on the development of colorectal tumours in Asian patients: a randomised trial.	雑誌名 : Gut 巻数 (号数) : 63(11) 出版年 : 2014 ページ : 1755-9
3	溝下 勤	消化器内科	Adalimumab Treatment in Biologically Naïve Crohn's Disease: Relationship with Ectopic MUC5AC Expression and Endoscopic Improvement.	雑誌名 : Gastroenterol Res Pract. 巻数 (号数) : 687257 出版年 : 2014 ページ : online
4	神谷 武	消化器内科	Therapeutic effects of biobran, modified arabinoxylan rice bran, in improving symptoms of diarrhea predominant or mixed type irritable bowel syndrome: a pilot, randomized controlled study	雑誌名 : Evid Based Complement Alternat Med. 巻数 (号数) : 10 出版年 : 2014 ページ :
5	城 卓志	消化器内科	Randomized clinical trial: rikkunshito in the treatment of functional dyspepsia- a multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled study	雑誌名 : Neurogastroenterol Motil. 巻数 (号数) : 26 出版年 : 2014 ページ : 950-961
6	田中 守	消化器内科	Antitumor effects in gastrointestinal stromal tumors using photodynamic therapy with a novel glucose-conjugated chlorin.	雑誌名 : Mol Cancer Ther 巻数 (号数) : 10 出版年 : 2014 ページ : 767-75
7	久保田 英嗣	消化器内科	Low ATM protein expression and depletion of p53 correlates with olaparib sensitivity in gastric cancer cell lines.	雑誌名 : Cell cycle 巻数 (号数) : 13 出版年 : 2014 ページ : 2129-37
8	近藤 啓	肝・膵臓内科	Efficacy of pancreatic stenting prior to extracorporeal shock wave lithotripsy for pancreatic stones.	雑誌名 : Dig Liver Dis 巻数 (号数) : 46 出版年 : 2014 ページ : 639-44
9	堀 寧	肝・膵臓内科	Feasibility of endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related procedures in hemodialysis patients	雑誌名 : J Gastroenterol Hepatol 巻数 (号数) : 29 出版年 : 2014 ページ : 648-52

10	梅村 修一郎	肝・膵臓内科	Autoimmune Pancreatitis Presenting a Short Narrowing of Main Pancreatic Duct with Subsequent Progression to Diffuse Pancreatic Enlargement over 24 Months; Natural History of Autoimmune Pancreatitis	雑誌名 : JOP 巻数 (号数) : 15 出版年 : 2014 ページ : 261-265
11	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	Isolated intrapancreatic IgG4-related sclerosing cholangitis	雑誌名 : World J Gastroenterol 巻数 (号数) : 21(4) 出版年 : 2015 ページ : 1334-43
12	清水 周哉	肝・膵臓内科	A Case of Photodynamic Therapy using Talaporfin Sodium for the Recurrence of Cholangiocarcinoma after Surgical Resection	雑誌名 : Internal Medicine 巻数 (号数) : 54(18) 出版年 : 2015 ページ : 2321-6
13	近藤 啓	肝・膵臓内科	Efficacy of pancreatic stenting prior to extracorporeal shock wave lithotripsy for pancreatic stones	雑誌名 : Dig Liver Dis 巻数 (号数) : 47(2) 出版年 : 2015 ページ : 178-9
14	西 祐二	肝・膵臓内科	Use of a scissors forceps for the endoscopic removal of a distally migrated self-expandable metallic stent adhering to the duodenal mucosa	雑誌名 : Endoscopy. 巻数 (号数) : 47 出版年 : 2015 ページ : online
15	堀 寧	肝・膵臓内科	Impact of TP53 codon 72 and MDM2 SNP 309 polymorphisms in pancreatic ductal adenocarcinoma	雑誌名 : PLoS One. 巻数 (号数) : 3 ; 10 ( 3 ) 出版年 : 2015 ページ : online
16	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	Amendment of the Japanese Consensus Guidlined for autoimmune pancreatitis, 2013 I. Concept and diagnosis of autoimmune pancreatitis. The working Committee of the Japan Pancreas Society and the Research Committee for intractable Pancreatic Disease	雑誌名 : J Gastroenterol 巻数 (号数) : 49 出版年 : 2014 ページ : 567-588
17	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	Amendment of the Japanese Consensus Guidlined for autoimmune pancreatitis, 2013 II. Extrapancreatic lesions, differential diagnosis. The working Committee of the Japan Pancreas Society and the Research Committee for intractable Pancreatic Disease	雑誌名 : J Gastroenterol 巻数 (号数) : 49 出版年 : 2014 ページ : 765-784

18	中沢 貴宏	肝・膵臓内科	Amendment of the Japanese Consensus Guidlined for autoimmune pancreatitis, 2013 III. Treatment and prognosis of autoimmune pancreatitis The working Committee of the Japan Pancreas Society and the Research Committee for intractable Pancreatic Disease	雑誌名：J Gastroenterol 巻数(号数)：49 出版年：2014 ページ：961-970
19	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	Evaluation of hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis C by EOB-MRI	雑誌名：World J Hepatol 巻数(号数)：6(12) 出版年：2014 ページ：930-938
20	飯尾 悦子	肝・膵臓内科	l Genome-wide association study identifies a PSMD3 variant associated with neutropenia in interferon-based therapy for chronic hepatitis C.	雑誌名：Hum Genet 巻数(号数)：134(3) 出版年：2015 ページ：279-89
21	高桑 修	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	ABCB1 Polymorphism as a Predictive Biomarker for Amrubicin-induced Neutropenia.	Anticancer Res, 34 (7): 2014. 3517-22.
22	大久保 仁嗣	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Treatments for idiopathic pulmonary fibrosis.	N Engl J Med 371 (8): 2014. 782.
23	大久保 仁嗣	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Efficacy of combined corticosteroid and pirfenidone for acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis after surgery for lung cancer: a case report.	Respir Investig 53 (1): 2015. 45-47.
24	金光 禎寛	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Osteopontin and periostin are associated with a 20-year decline of pulmonary function in patients with asthma..	Am J Respir Crit Care Med. 190(4): 2014. 472-4
25	難波 大夫	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	Short-term add-on tocilizumab and intravenous cyclophosphamide exhibited a remission-inducing effect in a patient with systemic lupus erythematosus with refractory multiorgan involvements including massive pericarditis and glomerulonephritis.	雑誌名：Mod Rheumatol. 30 (12): 1-4. (Epub ahead of print)
26	蜂矢 健太	循環器内科	Relation of epicardial fat to central aortic pressure and left ventricular diastolic function in patients with known or suspected coronary artery disease.	雑誌名：IntJardiovasc Imaging. 巻数(号数)：30(7) 出版年：2014 ページ：1393-8
27	蜂矢 健太	循環器内科	Double-valve Replacement for Mitral and Aortic Regurgitation in a Patient with Libman-Sacks Endocarditis.	雑誌名：Scientific report 巻数(号数)：25(4) 出版年：2014 ページ：5439

28	田中 覚	循環器内科	Differential response of central blood pressure to isometric and isotonic exercises.	雑誌名 : Scientific report 巻数 (号数) : 25(4) 出版年 : 2014 ページ : 5439
29	伊藤 剛	循環器内科	Fractional flow reserve -guided endovascular therapy for common iliac artery stenosis; a comparison with the exercise ankle brachial index: a case report	雑誌名 : IJC heart and vessels 巻数 (号数) : 4 出版年 : 2014 ページ : 208-210
30	伊藤 剛	循環器内科	Relationship between fractional flow reserve and residual plaque volume and clinical outcomes after optimal drug-eluting stent implantation: insight from intravascular ultrasound volumetric analysis.	雑誌名 : Int J Cardiol 巻数 (号数) : 176 出版年 : 2014 ページ : 399-404
31	伊藤 剛	循環器内科	Isolated left coronary ostial occlusion detected by multislice computed tomography	雑誌名 : IJC heart and vessels 巻数 (号数) : 1 出版年 : 2014 ページ : 82-83
32	伊藤 剛	循環器内科	Impact of sirolimus-eluting stent fractures without early cardiac events on long-term clinical outcomes: A multislice computed tomography study.	雑誌名 : Eur Radiol 巻数 (号数) : 24(5) 出版年 : 2014 ページ : 1006-1012
33	村井 俊介	循環器内科	The prevalence, characteristics, and clinical significance of abnormal albuminuria in patients with hypertension.	雑誌名 : Scientific report 巻数 (号数) : 24(4) 出版年 : 2014 ページ : 3884
34	北田 修一	循環器内科	Regional differences in recipient waitlist time and pre- and post-transplant mortality after the 2006 United Network for Organ Sharing policy changes in the donor heart allocation algorithm	雑誌名 : JACC 巻数 (号数) : 2(2) 出版年 : 2014 ページ : 166-177
35	藤田 浩志	循環器内科	The stenting strategy of drug-eluting stents for coronary artery disease in patients on dialysis	雑誌名 : SAGE Open Medicine 巻数 (号数) : 2 出版年 : 2014 ページ : DOI: 10.1177/2050312114562395
36	山本 浩司	循環器内科	Long-term survival of patients with pulmonary arterial hypertension recovering to World Health Organization functional class I or II: a historical comparison between intravenous epoprostenol and oral agents.	雑誌名 : BMC Res Notes 巻数 (号数) : 7 出版年 : 2014 ページ : 359
37	山下 純世	循環器内科	Central blood pressure reflects left ventricular load, while brachial blood pressure reflects arterial damage.	雑誌名 : Blood Press 巻数 (号数) : 12 出版年 : 2014 ページ : 1-7

38	白澤 祐一	腎臓内科	Diuretics-assisted treatment of chronic laxative abuse.	雑誌名 : CEN Case Reports 巻数 (号数) : 3 出版年 : 2014 ページ : 209-214
39	美浦 利幸	腎臓内科	The natriuretic effect of angiotensin receptor blockers is not attributable to blood pressure reduction during the previous night, but to inhibition of tubular sodium reabsorption.	雑誌名 : J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 巻数 (号数) : 15(3) 出版年 : 2014 ページ : 316-318
40	荻山 義明	腎臓内科	Circadian rhythm of urinary potassium excretion during treatment with an angiotensin receptor blocker.	雑誌名 : J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 巻数 (号数) : 15(4) 出版年 : 2014 ページ : 509-514
41	Narita T,	血液・腫瘍内科	t(14;16)-positive multiple myeloma shows negativity for CD56 expression and unfavorable outcome even in the era of novel drugs.	雑誌名 : Blood Cancer J 巻数 (号数) : 5 出版年 : 2015 ページ : e285
42	Kusumoto S,	血液・腫瘍内科	Phase I study of pegylated liposomal doxorubicin in combination with bortezomib for Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma.	雑誌名 : Int J Hematol 巻数 (号数) : 101(6) 出版年 : 2015 ページ : 578-84
43	Totani H,	血液・腫瘍内科	Reactivation of hepatitis B virus (HBV) infection in adult T-cell leukemia-lymphoma patients with resolved HBV infection following systemic chemotherapy.	雑誌名 : Int J Hematol 巻数 (号数) : 101(4) 出版年 : 2015 ページ : 398-404
44	Narita T	血液・腫瘍内科	HTLV-1 bZIP factor specific T cell response in ATL patients after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	雑誌名 : J Immunol 巻数 (号数) : 192 出版年 : 2014 ページ : 940-947
45	Ishida T,	血液・腫瘍内科	Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma: a randomized phase II study.	雑誌名 : Br J Haematol. 巻数 (号数) : 169(5) 出版年 : 2015 ページ : 672-82
46	Oguri T	神経内科	Postsurgical propriospinal myoclonus emerging at wake to sleep transition.	Sleep Med., 15(1), 2014, 152-154.
47	矢野 智紀	呼吸器外科	Adverse events of stapling in thoracic surgery: Relations between an incidence of adverse events and a stapling volume.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Aug; 20(4):320-4.

48	矢野 智紀	呼吸器外科	Adverse events of lung tissue stapling in thoracic surgery.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Oct; 20(5):370-7.
49	矢野 智紀	呼吸器外科	Clinicopathological analysis of small-sized anterior mediastinal tumors.	Surg Today. 2014 Oct; 44(10):1817-22.
50	矢野 智紀	呼吸器外科	Survival of 1737 lobectomy-tolerable patients who underwent limited resection for cStage IA non-small cell lung cancer.	Eur J Cardiothorac Surg 2015 Jan; 47:135-42
51	佐々木 秀文	呼吸器外科	APOBEC3B gene overexpression in Japanese non-small cell lung cancer.	Biomed Rep 2014 May; 2(3):392-395.
52	佐々木 秀文	呼吸器外科	PD-1 gene promoter polymorphisms correlated with poor prognosis in Japanese non-small cell lung cancer.	Mol Clin Oncol 2014 Nov; 2(6):1035-1042
53	佐々木 秀文	呼吸器外科	Increased BRAF copy number in lung adenocarcinoma.	Oncol Let 2015 Feb; 9:709-712,
54	奥田 勝裕	呼吸器外科	Thymoma patients with pleural dissemination: nationwide retrospective study of 136 cases in Japan.	雑誌名 : Ann Thorac Surg. 巻数 (号数) : 2014 出版年 : 97(5) ページ : 1743-8
55	設楽 将之	呼吸器外科	Genetic profiling of thymic carcinoma using targeted next-generation sequencing.	Lang Cancer. 2014 Nov; 86(2):174-9
56	立松 勉	呼吸器外科	Investigation of neurotrophic tyrosine kinase receptor 1 fusions and neurotrophic tyrosine kinase receptor family expression in non small cell lung cancer and sensitivity to AZD7451 in vitro.	Mol Clin Oncol 2014 Sep; 2(5):725-730
57	三島 晃	心臓血管外科	Aortic coarctation repair in neonates with intracardiac defects: the importance of preservation of the lesser curvature of the aortic arch.	J Card Surg. 2014 Sep;29(5):692-7.
58	中井 洋佑	心臓血管外科	Infected pseudoaneurysm following a modified Blalock-Taussig shunt procedure.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2014 May;22(4):481-3.
59	鱒淵 友美 (旧姓:遠藤)	乳腺内分泌外科	HER2 Mutation Status in Japanese HER2-negative Breast Cancer Patients.	Jpn J Clin Oncol. 2014 Jul; 44(7):619-23.

60	浅野倫子	乳腺内分泌外科	High expression of LMTK3 is an independent factor indicating a poor prognosis in estrogen receptor $\alpha$ -positive breast cancer patients.	Jpn J Clin Oncol. 2014 Oct; 44(10):889-97.
61	鰐淵 友美 (旧姓:遠藤)	乳腺内分泌外科	Immunohistochemical determination of the miR-1290 target arylamine N-acetyltransferase 1 (NAT1) as a prognostic biomarker in breast cancer.	BMC Cancer, 2014 Dec; 14(1):990,
62	Yamada S	整形外科	Anatomical basis of distally based anterolateral thigh flap.	J Plast Surg Hand Surg., 48(3), 2014, 197-200.
63	Yamamoto N	整形外科	Regulation by resveratrol of prostaglandin E2-stimulated osteoprotegerin synthesis in osteoblasts.	Int J Mol Med., ;34(5), 2014, 1439-1445.
64	Kuroyanagi G	整形外科	Down-regulation by resveratrol of basic fibroblast growth factor-stimulated osteoprotegerin synthesis through suppression of Akt in osteoblasts.	Int J Mol Sci., 15(10), 2014, 17886-17900.
65	Kuroyanagi G	整形外科	Suppression by resveratrol of prostaglandin D2-stimulated osteoprotegerin synthesis in osteoblasts.	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids., ;91(3), 2014, 73-80.
66	Kondo A	整形外科	Resveratrol inhibits BMP-4-stimulated VEGF synthesis in osteoblasts: suppression of S6 kinase.	Int J Mol Med., 33(4), 2014, 1013-1018.
67	Kondo A	整形外科	Rho-kinase limits BMP-4-stimulated osteocalcin synthesis in osteoblasts: regulation of the p38 MAP kinase pathway.	Life Sci., 96(1-2), 2014, 18-25.
68	Kuroyanagi G	整形外科	Resveratrol suppresses prostaglandin F(2 $\alpha$ )-induced osteoprotegerin synthesis in osteoblasts: inhibition of the MAP kinase signaling.	Arch Biochem Biophys., 542, 2014, 39-45.
69	Aiba H	整形外科	Conservative treatment for patients with osteoid osteoma: a case series	雑誌名 : Anticancer Res 巻数 (号数) : 34(7) 出版年 : 2014 ページ : 3721-3725
70	Watanabe N	整形外科	Hip arthroscopic synovectomy and labral repair in a patient with rheumatoid arthritis with a two-year follow-up	雑誌名 : Arthroscopy Techniques 巻数 (号数) : 3(4) 出版年 : 2014 ページ : e523-526

71	Nomura T	整形外科	Tumor necrosis factor stimulates osteoclastogenesis from human bone marrow cells under hypoxic conditions	雑誌名 : Exp Cell Res 巻数 (号数) : 321(2) 出版年 : 2014 ページ : 167-177
72	Sakuma E	整形外科	Morphological characteristics of the deep layer of articularis genus muscle	雑誌名 : Folia Morphol (Warsz) 巻数 (号数) : 73(3) 出版年 : 2014 ページ : 309-313
73	Shibata Y	整形外科	Morphometric analysis of the peroneal tubercle using a three-dimensional computed tomography model	雑誌名 : Foot (Edinb) 巻数 (号数) : 24(4) 出版年 : 2014 ページ : 200-202
74	Kondo A	整形外科	Resveratrol inhibits BMP-4-stimulated VEGF synthesis in osteoblasts: suppression of S6 kinase	雑誌名 : Int J Mol Med 巻数 (号数) : 33(4) 出版年 : 2014 ページ : 1013-1018
75	Yamamoto N	整形外科	Regulation by resveratrol of prostaglandin E2-stimulated osteoprotegerin synthesis in osteoblasts	雑誌名 : Int J Mol Med 巻数 (号数) : 34(5) 出版年 : 2014 ページ : 1439-1445
76	Kuroyanagi G	整形外科	Down-regulation by resveratrol of basic fibroblast growth factor-stimulated osteoprotegerin synthesis through suppression of Akt in osteoblasts	雑誌名 : Int J Mol Sci 巻数 (号数) : 15(10) 出版年 : 2014 ページ : 17886-17900
77	Senda H	整形外科	Palmar dislocation of the thumb metacarpophalangeal joint: report of four cases and a review of the literature	雑誌名 : J Hand Surg Eur 巻数 (号数) : 39(3) 出版年 : 2014 ページ : 276-281
78	Yamada S	整形外科	Anatomical basis of distally based anterolateral thigh flap	雑誌名 : J Plastic Surgery and Hand Surgery 巻数 (号数) : 48(3) 出版年 : 2014 ページ : 197-200
79	Kondo A	整形外科	Rho-kinase limits BMP-4-stimulated osteocalcin synthesis in osteoblasts: regulation of the p38 MAP kinase pathway	雑誌名 : Life Sci 巻数 (号数) : 96(1-2) 出版年 : 2014 ページ : 18-25

80	Sakuma E	整形外科	The changes of gap junctions between pituitary folliculo-stellate cells during the postnatal development of Zucker fatty and lean rats	雑誌名 : Microsc Res Tech 巻数 (号数) : 77(1) 出版年 : 2014 ページ : 31-36
81	Kageyama Y	整形外科	Involvement of Rac in thromboxane A2-induced human platelet activation: regulation of sCD40 ligand release and PDGF-AB secretion	雑誌名 : Molecular Medicine Reports 巻数 (号数) : 10(1) 出版年 : 2014 ページ : 107-112
82	Fukuta M	整形外科	Derivation of mesenchymal stromal cells from pluripotent stem cells through a neural crest lineage using small molecule compounds with defined media	雑誌名 : PLoS One 巻数 (号数) : 9(12) 出版年 : 2014 ページ : e112291
83	Wada I	整形外科	Intercellular communications within the rat anterior pituitary. XVI: postnatal changes of distribution of S-100 protein positive cells, connexin 43 and LH-RH positive sites in the pars tuberalis of the rat pituitary gland. An immunohistochemical and electron microscopic study	雑誌名 : Tissue Cell 巻数 (号数) : 46(1) 出版年 : 2014 ページ : 33-39
84	Nishimori Y	整形外科	The effect of intraoperative patient position on anterior tibial translation in anterior cruciate ligament reconstruction	雑誌名 : Nagoya Medical Journal 巻数 (号数) : 54(1) 出版年 : 2014 ページ : 1-7
85	Ikuta K	整形外科	Progression of hip joint deformity during the management of pelvic insufficiency fracture in a patient with rheumatoid arthritis: a case report	雑誌名 : Nagoya Medical Journal 巻数 (号数) : 54(3) 出版年 : 2014 ページ : 6
86	杉浦 真弓	産科婦人科	Role of Cathepsin F from decidual macrophages in patients with recurrent miscarriage.	雑誌名 : Molecular Human Reproduction 巻数 (号数) : 20 出版年 : 2014 ページ : 454-462
87	杉浦 真弓	産科婦人科	Non-specific psychological distress in women undergoing noninvasive prenatal testing because of advanced maternal age.	雑誌名 : Prenatal Diagnosis 巻数 (号数) : 34 出版年 : 2014 ページ : 1055-1060
88	杉浦 真弓	産科婦人科	Genotyping analysis for the 46 C/T polymorphism of coagulation factor XII and the involvement of factor XII activity in patients with recurrent pregnancy loss.	雑誌名 : Plos One 巻数 (号数) : 9 出版年 : 2014 ページ : e114452
89	鈴森 伸宏	産科婦人科	Parental decisions following prenatal diagnosis of chromosomal abnormalities: Implications for genetic counseling practice in Japan.	雑誌名 : Journal of Genetic Counseling 巻数 (号数) : 24 出版年 : 2015 ページ : 117-121

90	杉浦 真弓	産科婦人科	Prenatal findings of holoprosencephaly.	雑誌名 : Congenital Anomalies 巻数 (号数) : - 出版年 : 2015 ページ : 印刷中
91	Ando Naoki	小児科	Fulminant encephalopathy with marked brain edema and bilateral thalamic lesions.	雑誌名 : Neuropediatrics 巻数 (号数) : 45 出版年 : 2014 ページ : 256-260
92	Shinohara Tsutomu	小児科	Macitentan reverses early obstructive pulmonary vasculopathy in rats: Early intervention in overcoming the survivin-mediated resistance to apoptosis.	雑誌名 : American Journal of Physiology - Lung Cellular and Molecular Physiology 巻数 (号数) : 308 出版年 : 2014 ページ : 523-538
93	Nagaya Yoshiaki	小児科	Inflammatory cytokine tumor necrosis factor $\alpha$ suppresses neuroprotective endogenous erythropoietin from astrocytes mediated by hypoxia-inducible factor-2 $\alpha$ .	雑誌名 : European Journal of Neuroscience 巻数 (号数) : 40 出版年 : 2014 ページ : 3620-3626
94	Negishi Yutaka	小児科	Homoplasmy of a mitochondrial 3697G>A mutation causes Leigh syndrome.	雑誌名 : Journal of Human Genetics 巻数 (号数) : 59(7) 出版年 : 2014 ページ : 405-407
95	Nomura Takayasu	小児科	Probability curves focusing on symptom severity during an oral food challenge.	雑誌名 : Annals of Allergy, Asthma & Immunology 巻数 (号数) : 112 出版年 : 2014 ページ : 556-557
96	Kawase Kouya	小児科	Hypoxic ischemic encephalopathy in a case of intranuclear rod myopathy without any prenatal sentinel event.	雑誌名 : Brain and Development 巻数 (号数) : 37(2) 出版年 : 2015 ページ : 265-269
97	Ueda Hiroko	小児科	Combination of Miller-Dieker syndrome and VACTERL association causes extremely severe clinical presentation.	雑誌名 : European Journal of Pediatrics 巻数 (号数) : 173(11) 出版年 : 2014 ページ : 1541-1544

98	Ueda Hiroko	小児科	Perinatal management of neonatal alloimmune thrombocytopenia associated with anti-group A antibody.	雑誌名 : Transfusion Medicine 巻数 (号数) : 25 (1) 出版年 : 2015 ページ : 42-46
99	小椋 祐一郎	眼科	Efficacy and safety of intravitreal aflibercept injection in wet age-related macular degeneration: outcomes in the Japanese subgroup of the VIEW 2 study.	Br J Ophthalmol 99 (1) 2015 92-97
100	加藤 亜紀	眼科	Intravitreal ranibizumab for patients with neovascular age-related macular degeneration with good baseline visual acuity.	Ophthalmologica 233 (1) 2015 27-34
101	平野 佳男	眼科	IL-18 is not therapeutic for neovascular age-related macular degeneration.	Nat Med 20 (12) 2014 ページ :
102	小椋 祐一郎	眼科	Intravitreal aflibercept for macular edema secondary to central retinal vein occlusion: 18-month results of the phase 3 GALILEO study.	Am J Ophthalmol 158 (5) 2014 1032-1038
103	小椋 俊太郎	眼科	Wide-field fundus autofluorescence imaging to evaluate retinal function in patients with retinitis pigmentosa.	Am J Ophthalmol 158 (5) 2014 1093-1098
104	太田 聡	眼科	A case of retinopathy of prematurity treated by pattern scan laser photocoagulation.	Clin Ophthalmol 8 2014 1409-1412
105	伊地知 圭	耳鼻いんこう科	:Cell-cycle distribution and TS expression correlates 5-FU resistance in head and neck carcinoma cells.	雑誌名 : Anticancer Reserch 巻数 (号数) : 34) 6) 出版年 : 2014 ページ : 2907-2911
106	伊地知 圭	耳鼻いんこう科	Selection of Therapeutic Treatment with Alternating Chemoradiotherapy for Larynx Preservation in Laryngeal Carcinoma Patients.	雑誌名 : Japanese Journal of Clinical Oncology 巻数 (号数) 44 : 出版年 : 2014 ページ : 1063-1069
107	勝見さち代	耳鼻いんこう科	Quantitative analysis of facial palsy using a three-dimensional facial motion measurement system	雑誌名 : Auris Nasus Larynx 巻数 (号数) 42 出版年 : 2015 ページ : 275-83
108	Hiroshi Kato	皮膚科	Reconstruction of the external auditory canal using the random flap technique and laser Doppler evaluation	雑誌名 : Dermatologic Surgery 巻数 (号数) : 40 出版年 : 20, 14 ページ : 739-742

109	Erika Ito	皮膚科	Survival analysis of scalp angiosarcoma patients for treatment modalities in our hospital over the past 28 years	雑誌名 : Journal of Clinical & Experimental Dermatology Research 巻数 (号数) : 5 出版年 : 2014 ページ : 202
110	Nishio Hidenori	泌尿器科	Distinctive changes in histone H3K4 modification mediated via Kdm5a expression in spermatogonial stem cells of cryptorchid testes.	雑誌名 : The Journal of Urology 巻数 (号数) : 191 出版年 : 2014 ページ : 1564-1572
111	Hamakawa Takashi	泌尿器科	Interleukin-18 may lead to benign prostatic hyperplasia via thrombospondin-1 production in prostatic smooth muscle cells.	雑誌名 : The Prostate 巻数 (号数) : 74(6) 出版年 : 2014 ページ : 590-601
112	Mizuno Kentaro	泌尿器科	Elucidation of distinctive genomic DNA structures in patients with 46, XX testicular disorders of sex development using genome-wide analyses.	雑誌名 : The Journal of Urology 巻数 (号数) : 192(2) 出版年 : 2014 ページ : 535-541
113	Niimi Kazuhiro	泌尿器科	Novel effect of the inhibitor of mitochondrial cyclophilinD activation, N-methyl-4-isoleucine cyclosporine, on renal calcium crystallization.	雑誌名 : International Journal of Urology 巻数 (号数) : 21(7) 出版年 : 2014 ページ : 707-713
114	Naiki Taku	泌尿器科	GPX2 overexpression is involved in cell proliferation and prognosis of castration-resistant prostate cancer.	雑誌名 : Carcinogenesis 巻数 (号数) : 35(9) 出版年 : 2014 ページ : 1962-1967
115	Taguchi Kazumi	泌尿器科	Colony-stimulating factor-1 signaling suppresses renal crystal formation.	雑誌名 : JASN Journal of the American Society of Nephrology 巻数 (号数) : 25(8) 出版年 : 2014 ページ : 1680-1697
116	Iwatsuki Shoichiro	泌尿器科	Influence of siRNA-expressing vector transfection on adult rat testis in vivo.	雑誌名 : Nagoya Medical Journal 巻数 (号数) : 54(1) 出版年 : 2014 ページ : 9-21

117	Yamada Kenji	泌尿器科	UQCRA B is involved in bladder carcinogenesis in mouse and human.	雑誌名 : Nagoya Medical Journal 巻数 (号数) : 54(1) 出版年 : 2014 ページ : 23-32
118	Naiki Taku	泌尿器科	Gemcitabine and docetaxel, an effective second-line chemotherapy for lung metastasis of urothelial carcinoma.	雑誌名 : International Journal of Clinical Oncology 巻数 (号数) : 19(3) 出版年 : 2014 ページ : 516-522
119	Hamamoto Shuzo	泌尿器科	Developments in the technique of endoscopic combined intrarenal surgery in the prone split-leg position.	雑誌名 : Urology 巻数 (号数) : 84(3) 出版年 : 2014 ページ : 565-570
120	Iida Keitaro	泌尿器科	Accessory scrotum with perineal lipoma: Pathologic evaluation including androgen receptor expression.	雑誌名 : Urology Case Reports 巻数 (号数) : 2(6) 出版年 : 2014 ページ : 191-193
121	Iida Keitaro	泌尿器科	Metastasectomy as optimal treatment for late relapsing solitary brain metastasis from testicular germ cell tumor: a case report.	雑誌名 : BMC Research Notes 巻数 (号数) : 7 出版年 : 2014 ページ : 865
122	Tozawa Keiichi	泌尿器科	Pitfalls of robot-assisted radical prostatectomy: A comparison of positive surgical margins between robotic and laparoscopic surgery.	雑誌名 : International Journal of Urology 巻数 (号数) : 21(10) 出版年 : 2014 ページ : 976-979
123	Hayashi Yutaro	泌尿器科	Extravesical robot-assisted laparoscopic ureteral reimplantation for vesicoureteral reflux: initial experience in Japan with ureteral advancement technique.	雑誌名 : International Journal of Urology 巻数 (号数) : 21(10) 出版年 : 2014 ページ : 1016-1021
124	Akita Hidetoshi	泌尿器科	Infectious aortic aneurysms occurring 1 year after bacillus calmette-guerin bladder instillation therapy.	雑誌名 : International Journal of Urology 巻数 (号数) : 22(2) 出版年 : 2015 ページ : 234-235

125	近藤真前	精神科	Analysis of vestibular-balance symptoms according to symptom duration: dimensionality of the Vertigo Symptom Scale-short form	Health Qual Life Outcomes. 13(1), 2015, 4
126	明智龍男	精神科	Difference of patient's perceived need in breast cancer patients after diagnosis	Jpn J Clin Oncol, 2015. 45(1): p. 75-80.
127	明智龍男	精神科	Contribution of problem-solving skills to fear of recurrence in breast cancer survivors.	BreastCancerResTreat. 145 (1) .2014. p 205-10
128	橋本伸彦	精神科	Brain structural abnormalities in behavior therapy-resistant obsessive-compulsive disorder revealed by voxel-based morphometry.	Neuropsychiatr Dis Treatp. 10. 2014. p1 987-96
129	東英樹	精神科	Effects of psychosocial functioning, depression, seizure frequency, and employment on quality of life in patients with epilepsy.	EpilepsyBehav. 41. 2014. p18-20
130	川口彰子	精神科	Hippocampal volume increased after cognitive behavioral therapy in a patient with social anxiety disorder: a case report.	J Neuropsychiatry Clin Neurosci. 26(4). 20 14. E4-E5
131	白石直	精神科	Relationship between violent behavior and repeated weight-loss dieting among female adolescents in Japan.	PlosOne. 9(9). 2014 . e107744
132	白石直	精神科	Brief psychoeducation for schizophrenia primarily intended to change the cognition of auditory hallucinations: an exploratory study.	J Nerv Ment Dis. 202(1). 2014. p35-9
133	鈴木真佐子	精神科	A failure to confirm the effectiveness of a brief group psychoeducational program for mothers of children with high-functioning pervasive developmental disorders: a randomized controlled pilot trial.	Neuropsychiatr Dis Treat. 10. 2014. p 1141-53
134	Sakurai K	放射線科	The utility of cerebral perfusion SPECT analysis using SPM8, eZIS and vbSEE for the diagnosis of multiple system atrophy-parkinsonism.	Ann Nucl Med. 2015 Feb;29(2):206-13. doi: 10.1007/s12149-014-0928-4. Epub 2014 Nov 21.
135	Takeuchi M	放射線科	MRI for differentiation of renal cell carcinoma with sarcomatoid component from other renal tumor types.	Abdom Imaging. 2015 Jan;40(1):112-9. doi: 10.1007/s00261-014-0185-y.

136	Shimohira M	放射線科	Triaxial coil embolization using Guglielmi detachable coils with the voltage-dependent coil-detaching technique.	Acta Radiol. 2015 Jan;56(1):51-5. doi: 10.1177/0284185113518771. Epub 2013 Dec 20.
137	Suzuki K	放射線科	Stent Placement for Acute Superior Mesenteric Artery Occlusion Associated with Type B Aortic Dissection.	Case Rep Vasc Med. 2015;2015:485141. doi: 10.1155/2015/485141. Epub 2015 May 25.
138	Ogawa M	放射線科	Internal carotid artery blister-like aneurysm caused by Aspergillus - case report.	Pol J Radiol. 2015 Mar 25;80:159-63. doi: 10.12659/PJR.893050. eCollection 2015.
139	Shimohira M	放射線科	Triaxial system in re-embolization for recanalization of pulmonary arteriovenous malformations.	Pol J Radiol. 2015 Feb 7;80:67-71. doi: 10.12659/PJR.892378. eCollection 2015.
140	Suzuki K	放射線科	Usefulness of CT-guided hookwire marking before video-assisted thoracoscopic surgery for small pulmonary lesions.	J Med Imaging Radiat Oncol. 2014 Dec;58(6):657-62. doi: 10.1111/1754-9485.12214. Epub 2014 Aug 3.
141	Murai T	放射線科	Intensity modulated stereotactic body radiation therapy for single or multiple vertebral metastases with spinal cord compression.	Pract Radiat Oncol. 2014 Nov-Dec;4(6):e231-7. doi: 10.1016/j.prro.2014.02.005. Epub 2014 Mar 31.
142	Shibamoto Y	放射線科	Primary CNS lymphoma treated with radiotherapy in Japan: a survey of patients treated in 2005-2009 and a comparison with those treated in 1985-2004.	Primary CNS lymphoma treated with radiotherapy in Japan: a survey of patients treated in 2005-2009 and a comparison with those treated in 1985-2004.
143	Urano M	放射線科	Multi-detector row CT-guided marking technique for breast-conserving therapy of early breast cancer: margin positivity and local control rates.	Breast Cancer. 2014 Sep 3. [Epub ahead of print]

144	Kawai T	放射線科	Feasibility of time-resolved MR angiography for detecting recanalization of pulmonary arteriovenous malformations treated with embolization with platinum coils.	J Vasc Interv Radiol. 2014 Sep;25(9):1339-47. doi: 10.1016/j.jvir.2014.06.003. Epub 2014 Jul 8.
145	Sakurai K	放射線科	Imaging spectrum of sporadic cerebral amyloid angiopathy: multifaceted features of a single pathological condition.	Insights Imaging. 2014 Jun;5(3):375-85. doi: 10.1007/s13244-014-0312-x. Epub 2014 Feb 12.
146	Manabe Y	放射線科	Toxicity and efficacy of three dose-fractionation regimens of intensity-modulated radiation therapy for localized prostate cancer.	J Radiat Res. 2014 May;55(3):494-501. doi: 10.1093/jrr/rrt124. Epub 2013 Oct 17.
147	太田 晴子	麻酔科	Speed control for neuronal migration in the postnatal brain by Gmip-mediated local inactivation of RhoA.	雑誌名 : Nat Commun. 巻数 (号数) : 30 出版年 : 2014 ページ : 4532
148	片野広之	脳神経外科	Surgical treatment for carotid stenosis with highly calcified plaques	J Stroke Cerebrovasc Dis 23: 148-154, 2014
149	片野広之	脳神経外科	Comparison of internal shunts during carotid endarterectomy under routine shunting policy	Neurol Med Chir 54:806-811, 2014
150	片野広之	脳神経外科	Upregulation of ANGPTL4 messenger RNA and protein in severely calcified carotid plaque	J Stroke Cerebrovasc Dis 23:933-947, 2014
151	片野広之	脳神経外科	Depiction of the vasa vasorum during carotid endarterectomy by intraoperative videoangiography	J Stroke Cerebrovasc Dis 23:2920-2927, 2014
152	片野広之	脳神経外科	Fluorescein videoangiography and neovascularization in carotid plaque	Atherosclerosis 235: e158, 2014
153	片野広之	脳神経外科	Calcified carotid plaques show double symptomatic peaks according to Agatston calcium score	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Jun;24(6):1341-50
154	相原徳孝	脳神経外科	Preoperative characteristics of auditory brainstem response in acoustic neuroma with useful hearing: importance as a preliminary investigation for intraoperative monitoring	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014;54(4):267-71

155	Wada I	リハビリテーション科	Intercellular communications within the rat anterior pituitary. XVI: postnatal changes of distribution of S-100 protein positive cells, connexin 43 and LH-RH positive sites in the pars tuberalis of the rat pituitary gland. An immunohistochemical and electron microscopic study.	Tissue Cell. 46(1), 2014, 33-39.
-----	--------	------------	---	----------------------------------

計 155件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容  目的と適用範囲、責務、構成、委員長の選任方法、開催、成立要件、資料、調査・審議・報告事項、病院長に答申する事項、会議の運営・記録に関する事項、事務局、記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容  大学としての利益相反の指針を示す「利益相反ポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」並びに「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年利益相反に関する自己申告書を提出のうえ、必要に応じて適宜ヒアリングを実施している。 また、利益相反に関する専門的事項について調査及び審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置しているほか、別途、医学研究等にかかる利益相反に関する事項を審議するため、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、適切な管理に努めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容  教員倫理委員会（総務課・学術課）「研究者の倫理と社会的責任について」（実施日：H26/6/13、6/19）	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科において、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、基本領域の専門医資格取得を目指し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

また、現在、一般社団法人 日本専門医機構が定めた「専門医制度整備指針」に基づき、臨床研修を統括する総合研修センターの主導により、各診療科の専門研修プログラムの更新を進めている。

2 研修の実績

研修医の人数	48.2人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大原 弘隆	総合内科・総合診療科	部長	31年	
城 卓志	消化器内科	部長	37年	
野尻 俊輔	肝・膵臓内科	部長	25年	
新実 彰男	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科	部長	30年	
大手 信之	循環器内科	部長	34年	
岡山 直司	内分泌・糖尿病内科	部長	32年	
飯田 真介	血液・腫瘍内科	部長	28年	
松川 則之	神経内科	部長	27年	
福田 道雄	腎臓内科	部長	25年	
竹山 廣光	消化器・一般外科	部長	36年	
中西 良一	呼吸器外科	部長	30年	
三島 晃	心臓血管外科	部長	34年	
近藤 知史	小児・移植外科	部長	31年	
遠山 竜也	乳腺内分泌外科	部長	26年	
大塚 隆信	整形外科	部長	36年	
杉浦 真弓	産科婦人科	部長	30年	
齋藤 伸治	小児科	部長	30年	
小椋 祐一郎	眼科	部長	35年	
村上 信五	耳鼻いんこう科	部長	35年	
鳥山 和宏	形成外科	部長	26年	
森田 明理	皮膚科	部長	26年	
安井 孝周	泌尿器科	部長	21年	
明智 龍男	精神科	部長	24年	
芝本 雄太	放射線科	部長	35年	
祖父江 和哉	麻酔科	部長	22年	
間瀬 光人	脳神経外科	部長	30年	
渋谷 恭之	歯科口腔外科	部長	26年	
和田 郁雄	リハビリテーション科	部長	37年	
稲垣 宏	病理診断部	部長	31年	
笹野 寛	救急科	部長	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

【看護師】

(別紙資料1参照)

【薬剤師】

<名市大・市民病院合同化学療法勉強会>

- ①骨髄抑制 (6/18) 参加者158名
- ②皮膚障害と末梢神経障害 (7/16) 参加者165名
- ③血管外漏出、CVポート (8/20) 参加者126名
- ④Oncologic emergency (9/17) 参加者101名
- ⑤化学療法による晩期毒性 (特に性機能障害) (10/16) 参加者81名
- ⑥抗がん剤投与管理、投与調整 (11/19) 参加者92名
- ⑦がん診療によるEBM (12/17) 参加者76名

<薬剤部 勉強会 (症例検討会含む)>

- ①肺がん (4/10) 24名 ②症例検討 (4/24) 12名 ③胃がん (5/8) 17名 ④症例検討 (5/22) 12名

【臨床検査技師】

\*月に1,2回開催される部内勉強会において、以下の内容で研修を実施している。

- ①検査結果の精度保証と運用上の安全管理を目的とした、現行の業務内容・運用手順に関する研修
- ②高度な医療技術の提供を目指した、最新の検査技術、機器・試薬に関する研修
- ③医学・医療技術学の教育・研究に貢献するため、臨床検査分野の研究・検討に関する発表
- ⑤乳がん (6/12) 18名 ⑥がんの臨床試験 (6/26) 13名 ⑦大腸がん (7/10) 16名
- ⑧レゴラフェニブ (7/24) 14名 ⑨悪性リンパ腫 (8/14) 14名 ⑩抗菌薬とTDM (8/18) 13名
- ⑪症例検討 (8/22) 12名 ⑫肝胆膵がん (9/5) 13名 ⑬薬物相互作用PK/PD (9/12) 14名
- ⑭緩和ケア (10/22) 10名 ⑮個別化治療 (10/30) 10名 ⑯食道がん (11/12) 10名
- ⑰性機能障害 (11/17) 9名 ⑱日赤の安全対策 (12/9) 14名 ⑲薬物相互作用 (12/19) 7名

【診療放射線技師】

- ①医療機器の安全使用のため、高度管理医療機器研修を実施している。
- ②最新の技術紹介や、業務内容について検討し、全体のレベル向上を図るための亜業務検討会を実施している。

【臨床工学技士】

- ①実践ME技術講習会にて、人工呼吸器等の生命維持管理装置について実践的な技術及び管理方法について学ぶ。
- ②日本体外循環技術医学会1年次教育セミナーにて、人工心肺等の体外循環について学ぶ。
- ③臨床工学技士に関連した災害対策を学ぶ。

・研修の期間・実施回数

【看護師】

(別紙資料1参照)

【薬剤師】

上記参照

【臨床検査技師】 年26回 ※同日開催回あり

(4/16, 5/1・15, 6/19, 8/21, 9/18・24, 10/6・16・28, 11/14・20, 12/18, 1/15, 2/19・25, 3/19)

【診療放射線技師】

- ①2014/4/22、2014/10/28 計2回
- ②2014/4/9、5/27、6/25、7/29、8/13、10/7、10/28、10/29、11/19、12/2、12/9  
2015/1/13、3/23、3/27 計14回

【臨床工学技士】

- ①1日間を1回 ②2日間を1回 ③1日間を1回

・研修の参加人数

【看護師】

(別紙資料1参照)

【薬剤師】

上記参照

【臨床検査技師】

\*平均 18名/回

【診療放射線技師】

①28名、24名

②27名、22名、33名、27名、22名、14名、28名、27名、29名、20名  
26名、23名、20名

【臨床工学技士】

各研修会1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

【病院管理職 (課長級・係長級) 職員研修】

○ねらい

組織のマネジメントを進めるにあたり、組織のトップとして求められる経営能力及び危機管理能力を高めるなど管理職として必要な知識・技術を習得する。

○内容

- ・イノベーションが求められる背景
- ・創造性について
- ・思考のタガ・殻
- ・職場のイノベーション文化の創造

・研修の期間・実施回数

全1回 平成26年12月3日実施

・研修の参加人数

46名 (課長級13名・係長級33名)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 城 卓志
管理担当者氏名	事務課長 三浦 伸介

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録		病歴センター 事務課 各診療科 薬剤部	処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、入院診療要約など医療情報を電子記録化して一元管理している。また、紹介状及び入院診療計画書についてもスキャナーによる読み込みにより電子記録化している。 なお、電子記録化前の手術記録、看護記録、検査所見記録、入院診療要約、紹介状、入院診療計画書等については、カルテに添付して整理、入院分カルテは病歴センターで一括保管し、外来分カルテ及びエックス線写真は各診療科外来診療室において保管している。なお、入院カルテ及び外来カルテとも1診療科1カルテの形態で作成され、保管されている。 処方せんについては、薬剤部において保管している。
病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務課	/
	高度の医療の提供の実績	事務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務課	
	高度の医療の研修の実績	事務課	
	閲覧実績	事務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
第規 一則 号第 一に 掲 条 の 十一 体 制 第 一 確 項 保 各 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	/
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
	第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	物品供給センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	物品供給センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	物品供給センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	物品供給センター	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務課長 三浦 伸介	
閲覧担当者氏名	事務係長 釜本 英樹	
閲覧の求めに応じる場所	事務課事務係	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧に関する責任者、担当者、及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## (様式第6)

## 規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	⑦ ・ 無
<p>・ 指針の主な内容： (別紙資料2を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関における安全管理に関する基本的考え方</li> <li>・ 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項</li> <li>・ 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>・ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>・ 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>・ その他の医療安全の推進のために必要な基本方針</li> <li>・ 本指針の周知ならびに見直し及び改訂</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： (別紙資料3を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理体制の確保に関すること</li> <li>・ 安全管理のための教育・研修に関すること</li> <li>・ 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関すること</li> <li>・ 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関すること</li> <li>・ 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関すること</li> <li>・ 医療事故等の公表に関すること</li> <li>・ その他医療事故の防止に関すること</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 22 回
<p>・ 研修の主な内容： (別紙資料4を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理に関する研修 (全職員対象：新規採用者・中途採用者・研究医・研修医含む)</li> <li>・ 医療事故防止講演会</li> <li>・ 危機管理研修会 (重大事例報告会)</li> <li>・ 医薬品安全管理研修会</li> <li>・ 看護部における医療安全の教育</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ⑦ ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクマネジメントマニュアルの定期的な見直し (追録・修正)</li> <li>・ 安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ</li> <li>・ 事故収集による分析 (定量および定性分析) ・ 対策・実施</li> <li>・ リスクマネジメントニュースの発行</li> <li>・ eラーニングの実施</li> <li>・ 院内医療安全巡視</li> <li>・ 医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動</li> <li>・ 暴力対策の実施</li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	⑦ ( 3 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑦ ( 4 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑦ ・ 無

・所属職員：専任（ 3 ）名 兼任（ 4 ）名

・活動の主な内容：

- ・安全確保のための研修会や講演会の企画・運営
- ・医療安全管理委員会やリスクマネージャー会議の企画・運営（資料・議事録の作成及び保存）
- ・医療事故防止のための未然防止策の検討や、事故後再発防止策の検討・策定・実施・評価
- ・リスクマネジメントマニュアルの改訂
- ・医療安全巡視の計画・実施・評価
- ・職員への安全意識の向上のための教育システム（eラーニング）の掲載・成績把握・職場への周知
- ・説明・同意文書の見直しの企画・運営等
- ・重大医療事故後の原因分析や再発防止策のための各部署との検討会、各関連科との連携
- ・患者相談室との連携

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

④ ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	○ ・ 無
<p>・ 指針の主な内容： (別紙資料5を参照)</p> <p>・ 患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。</p> <p>・ 手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する</p> <p>・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</p> <p>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>・ 委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。</p> <p>(1) 感染防止対策マニュアルの改訂</p> <p>(2) 全職員を対象とした感染防止教育と啓発</p> <p>(3) 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項</p> <p>(4) 職業感染予防の策定</p> <p>(5) 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知</p> <p>(6) その他管内感染に関する重要事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 17 回
<p>・ 研修の主な内容： (別紙資料6を参照)</p> <p>(1) 院内感染対策講演会の開催 毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。</p> <p>① 平成26年 6月4日 「平成26年度当院の院内感染情報報告」 講師：脇山直樹 臨床検査技師 (名古屋市立大学病院 感染制御室・中央臨床検査部) 塩田有史 薬剤師 (名古屋市立大学病院 感染制御室・薬剤部) 田上由紀子 看護師 (名古屋市立大学病院感染制御室) 中村 敦 医師 (名古屋市立大学病院 感染制御室)</p> <p>② 平成26年 10月17日 「コスト面も含めた院内感染対策のメリット(MRSA、インフルエンザ、抗菌薬適正使用など)」 講師：宮良高維 (関西医科大学附属枚方病院第一内科診療教授)</p> <p>(2) 毎年4月に、新規採用職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。 平成26年4月2日 新規採用職員研修 院内感染予防対策講義、手洗い・個人防護具着脱演習</p> <p>(3) 毎年2回、中途採用者に対して院内感染対策に関する研修を行う。 平成26年 7月29日 安全管理・感染管理研修「感染予防対策」 平成27年 1月29日 安全管理・感染管理研修「感染予防対策」</p> <p>(4) その他の研修</p> <p>・ 看護部感染対策リンクナース会におけるリンクナース教育 平成26年7月8日 講義 「標準予防策・経路別予防策」 平成26年10月14日 講義 「滅菌・消毒・耐性菌感染対策」 平成26年12月9日 講義 「インフルエンザ感染対策、感染性腸炎感染対策」 平成27年2月10日 講義 「結核感染対策」</p> <p>・ 委託職員研修会 清掃担当職員対象 ① 平成26年7月10～11日 講義「環境整備・環境清掃」 ② 平成26年11月17日、19日 講義「清掃時における針刺し予防」</p> <p>・ NCU Infection Seminar 若手医師・研修医・コメディカル対象 平成26年 5月16日 「『インフェクション』を取り扱うために知っておくべきこと」 講師：トヨタ記念病院 感染症科 科部長川端 厚 先生 平成26年7月17日 「薬剤による感染症予防」</p>	

平成26年9月18日	講師:四日市羽津医療センター 薬剤科主任 片山 歳也 先生 「日本のHIV/エイズ増加する感染者・患者の背景と対策について」
平成26年 11月20日	講師:名古屋市立大学大学院看護学部・大学院看護研究科 国際保健学教授 市川 誠一 先生 「腹腔内感染症 診断・治療・手術の実際」
平成27年 1月15日	講師:名古屋市立大学病院 消化器外科病院講師・感染制御室副室長 若杉先生 健弘 先生 「レジオネラ感染症」
平成27年 3月19日	講師:関西医科大学附属枚方病院第一内科診療教授 宮良 高維 先生 「感染管理認定看護師の活動と感染対策について」 講師:南島メディカルセンター看護部長・感染管理認定看護師 松島 由美 先生

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

・ 感染対策チーム会は、次に掲げる事項について感染対策委員長より権限を委譲されている。

- (1) 感染予防の実施、監督及び指導
- (2) 院内感染発生時の発生原因の分析、改善策の立案及び実施
- (3) 感染症発生状態の把握

・ 感染制御室を中心とした感染対策チーム(ICT)に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告され、ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集し、対策を検討する。現場の実施に対し、指導・助言をする。

- ・ ICTにより現場のラウンドを実施し、感染対策上の問題の早期改善に向ける。
- ・ 職業感染防止策を積極的に導入・実践していくことで、職員が感染源となる感染予防対策を強化する。
- ・ 抗菌薬の使用動向を監視し、適正使用に向けた診療支援を行う。

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会 平成26年4月4日（金）11時20分～12時15分（病院第1会議室） 内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など（調剤担当薬剤師）</p> <p>医薬品安全管理講習会 平成26年7月15日（火）17時30分～18時30分（病院大ホール） 内容：麻薬の取扱いについて（麻薬業務担当薬剤師） フェンタニルを上手に使うには（緩和ケア担当薬剤師）</p> <p>安全管理研修会 平成27年3月6日（金）17時30分～19時00分（病院大ホール） 内容：術前中止薬と 持参薬確認の重要性について（持参薬担当薬剤師）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ③ 有 ・ 無</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>1. 薬剤部の業務 薬剤部の業務については『薬剤部業務マニュアル（新病院総合マニュアル 第8章 薬剤部門）』に従う。</p> <p>2. 医薬品の採用 医薬品の採用については『薬事委員会規約』及び『名古屋市立大学病院薬事委員会運営申し合わせ事項』に従う。</p> <p>3. 医薬品の管理 薬剤部における医薬品の管理については『薬品管理業務マニュアル』、『調剤マニュアル』、『調剤マニュアル（簡易版）』、『調剤薬補充・管理マニュアル』に従う。また、病棟・外来においては薬品管理者（責任医師、看護師、薬剤師）を配置し、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。毒薬、向精神薬（第2種）、麻薬についてはそれぞれ『毒薬管理手順書』、『第2種向精神薬・毒薬（筋弛緩薬）管理マニュアル』、『麻薬管理マニュアル』に従う。</p> <p>4. 病棟・各部門への医薬品の供給 病棟・部門への医薬品の供給については『薬品管理業務マニュアル』、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。</p> <p>5. 外来患者への医薬品の供給 外来患者への医薬品の供給については『調剤マニュアル』に従う。</p> <p>6. 入院患者への医薬品の供給 医薬品の患者への投与については『与薬に関するマニュアル（看護手順 8. 与薬の看護技術）』に従う。</p> <p>7. 入院患者への医薬品の情報提供 入院患者への医薬品の情報提供については『薬剤管理指導マニュアル』、『疾患別薬剤管理指導マニュアル（案）』に従って薬剤師は患者へ服用薬の情報を提供する。</p> <p>8. 医薬品情報の収集・管理・提供 医薬品情報の収集・管理・提供については『名古屋市立大学病院における医薬品情報管理マニュアル』に従う。</p> <p>9. 他の医療機関・調剤薬局との連携 他の医療機関・調剤薬局との連携については『院外薬局から送られた後発医薬品変更のFAXの管理（新病院総合マニュアル 第19章 医療・福祉地域連携室）』、『薬剤管理指導マニュアル』および『薬薬連携のための地域の薬剤師会との検討会について』に従う。</p> <p>10. 抗がん剤の管理・調製 抗がん剤の管理・調製については、『抗がん剤調製マニュアル（入院用・外来用）』および『抗がん剤レジメンチェックマニュアル』に従う。</p>	

1 1. 感染対策 感染対策については、『抗菌薬適正使用マニュアル』、『術後抗生剤投与マニュアル』および『抗MRSA薬使用の手引き』に従う。

1 2. 中心静脈栄養 (TPN) 調製 中心静脈栄養 (TPN) 調製については、『中心静脈栄養 (TPN) 無菌混合調製マニュアル』に従う。

1 3. 入院時の持参薬 入院時の持参薬については、『入院支援センターマニュアル (新病院総合マニュアル第25章)』および『持参薬管理マニュアル』に従う。

1 4. 危険薬 危険薬の定義については、『本院における危険薬一覧』に従う。

1 5. 処方せんの記載方法 処方せんの記載方法については、システム操作マニュアル 第6章 オーダリングツールの『6.1処方オーダ』および『6.7 注射オーダ』に従う。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

① 医薬品適正使用のための注意喚起

薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。

② 院内安全性情報の活用

本院に重要と考えられる安全性情報について、安全性情報に基づく必要な対応 (検査の実施・患者への説明等) について薬剤師が該当患者のカルテ上に記載して、医師に対応を求める取り組みを実施している。平成26年度には、安全性速報2件 (「ソブリアードカプセル100mgによる高ビリルビン血症について (2014年10月14-02号)」および「ラミクタール錠小児用2mg、5mg、ラミクタール錠25mg、100mgによる重篤な皮膚障害について (2015年2月14-03号)」) について実施した。

③ 医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組み

医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組みに沿った改善活動として、医師・薬剤師・看護師等の多職種による検討を行い、以下の点について実施した。

・ 内服抗がん剤処方に関するリスクの検討 (アンケート調査実施)

④ 抗がん剤の管理・調製

薬剤部にてすべての抗がん剤使用レジメンの登録管理を行っている。かつ外来および入院のすべての抗がん剤使用患者の抗がん剤の調製も行っている (休日含む)。抗がん剤使用患者に対する薬学的管理 (入院患者はもちろん、外来患者への説明を含む) を実践している。また陰圧アイソレーター (ケモシールド®) を使用することにより、ファシールを使用することなく揮発性の抗がん剤 (エンドキサン注®等) を安全に調製できる作業環境を提供している。

⑤ 入院支援センターの設置

平成24年10月1日に、これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「入院支援センター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で実施している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお薬手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体での持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。

平成26年度の服用薬確認件数 (1月あたり) : 入院時663件、入院前340件

⑥ リスクマネジメント関連情報の発信

院内配布のRMニュース「おくすりのはなし」の項に薬物取扱・使用における安全管理の留意点を定期的 (3か月に1回の割合) に継続連載して、院内医療関係者への注意喚起を実施している。

⑦医療安全教育（医薬品に関する安全教育）の実施

医療安全管理室が主催する医療安全教育（電子カルテを用いたe-ラーニング）に参加し、全職種を対象に医薬品に関する安全教育を実施している。平成26年度は「ジェネリック医薬品について」を実施した。

⑧薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・地域連携リカハス（がん地域連携ハス）などについて意見交換を行っている（平成26年度は計4回実施）。

また、呼吸器内科と協働して、地域の保険薬局の薬剤師を対象とした吸入指導講習会（吸入指導ネットワーク）を年2回実施している。

⑨部門ごとの医薬品管理者の選定

各部門ごとに医師・看護師・薬剤師の3者の医薬品管理者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。さらに管理担当薬剤師からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。平成23年度からは部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品管理者（医師・看護師・薬剤師）による3者ミーティングも実施している。

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊟ ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 167 回
<p>・ 研修の主な内容： (別紙資料7を参照)</p> <p>I. 新しい医療機器の導入時の在職職員に対する取扱研修。 II. 人工心肺装置、人工呼吸器、保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する在職職員に対する取扱研修。 III. 新規採用職員に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び在職職員に対する随時研修。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 ㊟ ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>I. 人工呼吸器、除細動器、保育器等のMEセンター管理機器については、使用后MEセンターに返却の都度もしくは一定の点検期間毎に、保守点検を実施している。 II. 診療用高エネルギー放射線発生装置などその他の医療機器については、業者による定期点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ㊟ ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>I. (i) 医療機器に係る院内のインシデント・アクシデント情報、(ii) メーカーから直接寄せられるリコール情報、(iii) 医薬品医療機器総合機構から発信される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。 II. 機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。 III. 医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期	
評価を行った機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：2013年8月2日 (初回認定：2008年2月18日) 備考：認定第JC1440-2号 一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：Ver. 1.0	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	
【病院HP等】 ○病院HPに当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。 ○愛知県が管理する「あいち医療情報ネット」に診療時間や診療科目等の情報を掲載している。	
【院外広報紙】 ○「さくらほっとNEWS」を刊行(年4回程度)し、当院の最新情報やお知らせを、患者や地域の住民向けに発信している。病院HPへの掲載、院内窓口での配布、院外(近隣病院、市内区役所等)及び職員向けに配布している。 ○「名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターNEWS」を刊行(年4回程度)し、当院におけるシミュレーション教育の内容について発信している。病院HPへの掲載、院内及び院外(近隣病院)向けに配布している。	
【公開講座等】 ○「患者情報ライブラリーセミナー」(年6回程度)や、各科による公開講座(不定期)について、疾患に対する理解を深めるため、患者や一般市民向けに開催している。 病院、大学HPに開催情報が掲載される。 ○国際福祉健康産業展「ウェルフェア」の開催に伴う併催行事として講演会・セミナー・ワークショップが開催されており、当院の職員が講師となって講演を行っている。病院HPに開催情報が掲載される。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
○診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファレンスを実施している。 ○全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。 ○複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。 ○医療安全、感染、栄養サポート(NST)、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。 ○診療連携拠点病院(肝疾患、地域がん)として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。 ○救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、X線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である。	

研修名	日程	時間帯	種類	主催	必須 タグ	人数	参加人数	受付期間	テーマ	会場・場所	参加条件
新規採用者スキルアップ	2014/05/09	18:00～19:00				20	10	2014/05/01～2014/05/07	26年度新規採用者対象のスキルアップセミナーです	西棟1階 シミュレーションセンター多目的室	
安全管理Ⅱ	2014/05/13	09:00～12:00	院内教育(現任)	看護部	I	0	97	2014/04/16～2014/05/02	<目標>個人のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる <目的>安全な看護について考えることができる事例を通して危険を予知した安全行動をとることができる	本部棟4階ホール	リーダーレベルⅠ認定済のものまたは所属部長が必要と認めたもの
安全管理Ⅱ	2014/05/13	13:45～16:45	院内教育(現任)	看護部	I	0	97	2014/04/16～2014/05/02	<目標>個人のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる <目的>安全な看護について考えることができる事例を通して危険を予知した安全行動をとることができる	本部棟4階ホール	リーダーレベルⅠ認定済のものまたは所属部長が必要と認めたもの
新規採用者スキルアップ	2014/05/16	18:00～19:00				0	9	2014/05/01～2014/05/14	26年度新規採用者対象のスキルアップセミナーです	西棟1階 シミュレーションセンター研修室Ⅲ	
新規採用者スキルアップ	2014/05/23	18:00～19:00				25	11	2014/05/01～2014/05/21	26年度新規採用者対象のスキルアップセミナーです	西棟1階 シミュレーションセンター多目的室	
症例検討	2014/05/29	16:00～18:00	院内教育(現任)	看護部		0	103	2014/04/10～2014/05/09	目的:看護に必要な能力開発と自己の看護観について考えることができる 目標:要項参照	3階大ホール	平成24年度採用職員、その他所属部長が必要と認めたもの
症例検討	2014/05/30	16:00～18:00	院内教育(現任)	看護部		0	103	2014/04/10～2014/05/09	目的:看護に必要な能力開発と自己の看護観について考えることができる 目標:要項参照	3階大ホール	平成24年度採用職員、その他所属部長が必要と認めたもの
新規採用者スキルアップ	2014/06/06	18:00～19:00	院内教育(新規)	看護部		20	1	2014/05/14～2014/06/04	26年度新規採用者対象のスキルアップセミナーです ※5月9日(金)に開催したスキルアップセミナーと同一事例を使用して演習を行います。	西棟1階 シミュレーションセンター多目的室	5月9日(金)に開催したスキルアップセミナーに参加した方は、参加できません。
新任主任研修	2014/06/10	13:00～17:00	管理者教育	看護部		0	7		主任として必要な知識・能力を学び、役割について理解する 主任として問題意識持って自部署の課題を解決できる	3階 書庫	平成26年度新任主任
新規採用者スキルアップ	2014/06/17	18:00～19:00	スキルアップ(新人)	看護部		0	0	2014/06/05～2014/06/16	平成26年度新規採用者対象のスキルアップセミナーです。	西棟1階シミュレーションセンター	
マネジメントⅠ	2014/06/23	08:45～12:00	院内教育(現任)	看護部	Ⅱ	0	43	2014/05/15～2014/06/02	<目的>組織における個々の役割を認識する	4階 第1会議室	リーダーレベルⅡ認定済みの職員
マネジメントⅠ	2014/06/23	13:00～16:45	院内教育(現任)	看護部	Ⅱ	0	43	2014/05/15～2014/06/02	<目的>組織における個々の役割を認識する	4階 第1会議室	リーダーレベルⅡ認定済みの職員
リーダーⅢ	2014/06/25～2014/06/27		院内教育(現任)	看護部	Ⅳ	0	28	2014/05/15～2014/06/02	<目的>固定チームナーシングにおいてリーダーシップを発揮する	名古屋市互助会厚生寮 野間荘	現在チームリーダーを担っている職員または次年度担当予定の職員
主任研修	2014/07/2	08:45～11:45	管理者教育	看護部		0	75	2014/06/13～2014/07/08	<目的>自部署の看護の質を改善するために主任としての役割を果たすことができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	
主任研修	2014/07/2	13:00～16:00	管理者教育	看護部		0	75	2014/06/13～2014/07/08	<目的>自部署の看護の質を改善するために主任としての役割を果たすことができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	
新人BLS研修	2014/07/29	08:45～10:25	院内教育(新人)	看護部	I	0	99	2014/06/13～2014/07/08	平成26年度新規採用者対象のBLS研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	
新人BLS研修	2014/07/29	10:35～12:15	院内教育(新人)	看護部	I	0	99	2014/06/13～2014/07/08	平成26年度新規採用者対象のBLS研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	
フォローアップⅠ	2014/07/29	13:00～17:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	97	2014/06/13～2014/07/08	新規採用者フォローアップ研修 <目的>職場での3ヶ月の看護や生活を振り返り、職業人としての心構えを高める	7月29日(火):本部棟4階 ホール 8月1日(金):病棟・中央診療棟4階第1会議室	
新人BLS研修	2014/08/01	08:45～10:25	院内教育(新人)	看護部	I	0	99	2014/06/13～2014/07/08	平成26年度新規採用者対象のBLS研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	
新人BLS研修	2014/08/01	10:35～12:15	院内教育(新人)	看護部	I	0	99	2014/06/13～2014/07/08	平成26年度新規採用者対象のBLS研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	
フォローアップⅠ	2014/08/01	13:00～17:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	97	2014/06/13～2014/07/08	新規採用者フォローアップ研修 <目的>職場での3ヶ月の看護や生活を振り返り、職業人としての心構えを高める	7月29日(火):本部棟4階 ホール 8月1日(金):病棟・中央診療棟4階第1会議室	

2014年度別研修一覧

研修名	日程	時間帯	種類	主催	必須 タグ	人数	参加人数	受付期間	テーマ	会場・場所	参加条件
静脈注射 I	2014/08/07	08:45～12:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	97	2014/07/03～2014/07/18	<目的>静脈注射に関する知識・技術を学び、ルールに従って安全な実施ができる <目標>1. 静脈注射を安全に実施するための法的責任、判断基準が理解できる 2. 静脈注射における正しい手順を理解し、実施ができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	平成26年度新規採用職員および中途採用などで1研修未受講のもの
静脈注射 I	2014/08/07	13:30～16:45	院内教育(新人)	看護部	I	0	97	2014/07/03～2014/07/18	<目的>静脈注射に関する知識・技術を学び、ルールに従って安全な実施ができる <目標>1. 静脈注射を安全に実施するための法的責任、判断基準が理解できる 2. 静脈注射における正しい手順を理解し、実施ができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	平成26年度新規採用職員および中途採用などで1研修未受講のもの
静脈注射 I	2014/08/08	08:45～12:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	97	2014/07/03～2014/07/18	<目的>静脈注射に関する知識・技術を学び、ルールに従って安全な実施ができる <目標>1. 静脈注射を安全に実施するための法的責任、判断基準が理解できる 2. 静脈注射における正しい手順を理解し、実施ができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	平成26年度新規採用職員および中途採用などで1研修未受講のもの
静脈注射 I	2014/08/08	13:30～16:45	院内教育(新人)	看護部	I	0	97	2014/07/03～2014/07/18	<目的>静脈注射に関する知識・技術を学び、ルールに従って安全な実施ができる <目標>1. 静脈注射を安全に実施するための法的責任、判断基準が理解できる 2. 静脈注射における正しい手順を理解し、実施ができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	平成26年度新規採用職員および中途採用などで1研修未受講のもの
指導者 I	2014/08/22	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部	II	0	103	2014/07/03～2014/07/30	<目的>1. 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てることで、喜びを感じることができる <目標>1. 対象の背景を知り、臨床指導者の役割を理解できる。 2. 「良い指導」について考え、実践することができる	4階 第1会議室	ラダーレベルI 認定済以上
指導者 I	2014/08/25	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部	II	0	103	2014/07/03～2014/07/30	<目的>1. 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てることで、喜びを感じることができる <目標>1. 対象の背景を知り、臨床指導者の役割を理解できる。 2. 「良い指導」について考え、実践することができる	4階 第1会議室	ラダーレベルI 認定済以上
リーダー II	2014/09/12	08:45～12:15	院内教育(現任)	看護部	II	0	49	2014/08/06～2014/08/22	メンバーの魅力を引き出そう！ <目的> チーム医療の中で看護職としてリーダーシップが発揮できる <目標> 1. リーダーシップを理解し、問題解決ができる 2. 医療チームの一員の中での看護職の役割を理解し、実践することができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	ラダーレベルII 認定済の職員 その他所属部長が必要と認めたもの
リーダー II	2014/09/12	13:15～16:45	院内教育(現任)	看護部	II	0	49	2014/08/06～2014/08/22	メンバーの魅力を引き出そう！ <目的> チーム医療の中で看護職としてリーダーシップが発揮できる <目標> 1. リーダーシップを理解し、問題解決ができる 2. 医療チームの一員の中での看護職の役割を理解し、実践することができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	ラダーレベルII 認定済の職員 その他所属部長が必要と認めたもの
指導者 III	2014/09/18	12:30～17:00	院内教育(現任)	看護部	IV	0	33	2014/08/07～2014/08/22	<目的> 人材育成能力を養うことができる 人を育てることで、喜びを感じることができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	ラダーレベルIII 認定済以上(ラダーレベルIV認定必須研修) 部署全体の指導を現在担っている、または今後担うことを期待するスタッフ または 主任へのキャリアアップを検討しているスタッフ(主任昇格試験受験必須研修) ※現在、主任職にあるスタッフの参加も可
安全管理 II	2014/09/26	08:45～12:15	院内教育(現任)	看護部	I	0	86	2014/08/14～2014/08/29	<目的>個人のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる <目標> 安全な看護について考えることができる 事例を通して危険を予知した安全行動を取ることができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	平成25年度採用者(ラダーレベルI 認定済)

2014年度別研修一覧

研修名	日程	時間帯	種類	主催	必須 タグ	人数	参加人数	受付期間	テーマ	会場・場所	参加条件
安全管理Ⅱ	2014/09/26	13:15～16:45	院内教育(現任)	看護部	I	0	86	2014/08/14～2014/08/29	<目的>個人のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる <目標>安全な看護について考えることができる事例を通して危険を予知した安全行動を取ることができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	平成25年度採用者(ラダーレベル1認定済)
静脈注射Ⅱ	2014/10/06	08:45～10:45	院内教育(現任)	看護部		0	93	2014/08/27～2014/09/14	<目的> 1. 看護師による末梢静脈留置実施者として看護師の役割を正しく理解できる 2. 日本看護協会「静脈注射の実施に関する指針」におけるレベル3のうち末梢静脈留置の実施ができる 演習: 静脈留置針留置	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室	採用2年目職員 その他所属部長が必要と認めたもの
静脈注射Ⅱ	2014/10/06	11:00～13:00	院内教育(現任)	看護部		0	93	2014/08/27～2014/09/14	<目的> 1. 看護師による末梢静脈留置実施者として看護師の役割を正しく理解できる 2. 日本看護協会「静脈注射の実施に関する指針」におけるレベル3のうち末梢静脈留置の実施ができる 演習: 静脈留置針留置	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室	採用2年目職員 その他所属部長が必要と認めたもの
静脈注射Ⅱ	2014/10/06	14:00～16:00	院内教育(現任)	看護部		0	93	2014/08/27～2014/09/14	<目的> 1. 看護師による末梢静脈留置実施者として看護師の役割を正しく理解できる 2. 日本看護協会「静脈注射の実施に関する指針」におけるレベル3のうち末梢静脈留置の実施ができる 演習: 静脈留置針留置	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室	採用2年目職員 その他所属部長が必要と認めたもの
フォローアップⅡ	2014/10/16	13:00～17:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	90	2014/09/05～2014/09/24	<目的(案)>6ヶ月の自己の看護や職場生活を振り返り、自己の成長を実感し、今後の課題を明確にすることができる 看護師のキャリアデザインに対して理解を深め、自己のキャリアを考えることができる	16日(木) 病棟・中央診療棟4階 第1会議室 17日(金) 西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室	新規宿泊研修後半に参加した研修生は16日(木) 新規宿泊研修前半に参加した研修生は17日(金)に参加すること
フォローアップⅡ	2014/10/17	13:00～17:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	90	2014/09/05～2014/09/24	<目的(案)>6ヶ月の自己の看護や職場生活を振り返り、自己の成長を実感し、今後の課題を明確にすることができる 看護師のキャリアデザインに対して理解を深め、自己のキャリアを考えることができる	16日(木) 病棟・中央診療棟4階 第1会議室 17日(金) 西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室	新規宿泊研修後半に参加した研修生は16日(木) 新規宿泊研修前半に参加した研修生は17日(金)に参加すること
リフレクション研修	2014/10/24	13:30～16:00	院内教育(現任)	看護部		35	15	2014/08/27～2014/09/23	<目的>中堅看護職員としてキャリアビジョンを描く事ができる <目標>リフレクションを通して、看護の楽しみや喜びを再発見し、やりがいを見出すことができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室	看護職経験7年以上の職員(他院での経験を含む)
フィジカルアセスメントⅡ	2014/10/31	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部		0	17	2014/09/05～2014/09/24	正確なフィジカルイグザミネーションの手法を身につけ、根拠に基づいた、ケアにつなげるアセスメントを実践することができる 根拠に基づいたフィジカルアセスメントの指導ができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	ラダーレベルⅡ、Ⅲ認定済のもの
フィジカルアセスメントⅡ	2014/11/04	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部		0	17	2014/09/05～2014/09/24	正確なフィジカルイグザミネーションの手法を身につけ、根拠に基づいた、ケアにつなげるアセスメントを実践することができる 根拠に基づいたフィジカルアセスメントの指導ができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	ラダーレベルⅡ、Ⅲ認定済のもの
リーダーⅠ	2014/11/13	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部	Ⅱ	0	63	2014/10/01～2014/10/19	<目的>患者に合わせた看護を行ううえでのリーダーシップを取ることができる 講義: 看護過程、リーダーシップ グループ討議: 関連図を記載して考えたこと 体験学習	13日(木) 西棟1階臨床シミュレーションセンター 14日(金) 病棟・中央診療棟4階 第1会議室	ラダーⅠ認定済のもの(ラダーⅡ認定必須研修) その他所属部長が必要と認めたもの
リーダーⅠ	2014/11/14	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部	Ⅱ	0	63	2014/10/01～2014/10/19	<目的>患者に合わせた看護を行ううえでのリーダーシップを取ることができる 講義: 看護過程、リーダーシップ グループ討議: 関連図を記載して考えたこと 体験学習	13日(木) 西棟1階臨床シミュレーションセンター 14日(金) 病棟・中央診療棟4階 第1会議室	ラダーⅠ認定済のもの(ラダーⅡ認定必須研修) その他所属部長が必要と認めたもの
インターネット配信研修(日本看護協会)	2014/11/25	17:30～19:00	その他	看護部		0	23	2014/11/13～2014/12/02	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識 ー労働時間編ー 第7章～	11/25: 3階大ホール 12/1: 書庫	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2014/11/27		その他	看護部		0	40	2014/11/12～2014/11/28	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識 ー労働時間編ー 第1章～第6章	11/27: 3階大ホール 12/7, 28: 書庫	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2014/11/28		その他	看護部		0	40	2014/11/12～2014/11/28	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識 ー労働時間編ー 第1章～第6章	11/28: 3階大ホール 12/7, 28: 書庫	

2014年度別研修一覧

研修名	日程	時間帯	種類	主催	必須 タグ	人数	参加人数	受付期間	テーマ	会場・場所	参加条件
インターネット配信研修 (日本看護協会)	2014/12/01	17:30～19:00	その他	看護部		0	23	2014/11/13～2014/12/02	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識 ー労働時間編ー 第7章～	11/25:3階大ホール 12/1:書庫	
緊急時の看護	2014/12/01		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
インターネット配信研修 (日本看護協会)	2014/12/02	17:30～19:00	その他	看護部		0	23	2014/11/13～2014/12/02	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識 ー労働時間編ー 第7章～	11/25:3階大ホール 12/1:書庫	
緊急時の看護	2014/12/02		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
緊急時の看護	2014/12/04		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
症例検討	2014/12/05	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部		0	49	2014/11/05～2014/11/21	【目的】 看護に必要な能力開発と自己の看護感について考えることができる 症例検討発表会・グループ討議「私の目指す看護」	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	平成24年度採用職員
症例検討	2014/12/08	13:00～17:00	院内教育(現任)	看護部		0	49	2014/11/05～2014/11/21	【目的】 看護に必要な能力開発と自己の看護感について考えることができる 症例検討発表会・グループ討議「私の目指す看護」	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	平成24年度採用職員
緊急時の看護	2014/12/09		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
緊急時の看護	2014/12/10		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
緊急時の看護	2014/12/11		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
緊急時の看護	2014/12/12		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05～2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
プリセプターエイド	2014/12/15	12:45～17:00	院内教育(現任)	看護部		0	20	2014/11/17～2014/11/28	<目的> 新人教育の目的を理解し、プリセプターエイドとしての役割を遂行できる <内容> 講義・グループ討議	4階 第1会議室	平成27年度プリセプターエイド予定者(指導者I・II研修を受講していることが望ましい) ラダーレベルII 認定済以上

2014年度別研修一覧

研修名	日程	時間帯	種類	主催	必須 ラダー	人数	参加人数	受付期間	テーマ	会場・場所	参加条件
緊急時の看護	2014/12/15		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05 ～ 2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
緊急時の看護	2014/12/19		院内教育(現任)	看護部	II	0	62	2014/11/05 ～ 2014/11/28	【目的】 急変前徴候に気づき、急変を予防する力を養うことができる 緊急時の対応能力を向上させることができる 研修(体験)からの学びを日常の実践に活かすことができる 部署単位・シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室 ほか	平成25年度採用職員
指導者II	2014/12/20	13:00～ 16:00	院内教育(現任)	看護部	III	0	26	2014/11/06 ～ 2014/11/25	<目的>成人教育について理解し、実践できる <内容> コーチングについての講義・演習(外部講師研修)	病棟・中央診療棟 4階第1会議室	1月20日(火)に開催予定の指導者研修IIに参加するもの ラダーレベルII認定済以上(ラダーレベルIII認定必須研修) 26年度プリセプターエイド研修参加予定者はなるべく受講すること
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/01/06	17:30～ 19:00	その他	看護部		0	55	2014/12/03 ～ 2015/01/22	看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの「勤務編成の基準」前半	中央診療棟 3階大ホール	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/01/08	17:30～ 19:00	その他	看護部		0	55	2014/12/03 ～ 2015/01/22	看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの「勤務編成の基準」前半	中央診療棟 3階大ホール	
BLS研修	2015/01/08	17:30～ 19:00	その他	看護部		12	0	2014/12/25 ～ 2015/01/07	看護部BLS研修	シミュレーションセンター多目的室	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/01/13	17:30～ 19:15	その他	看護部		0	39	2014/12/03 ～ 2015/01/22	看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの「勤務編成の基準」後半	中央診療棟 3階大ホール	
プリセプター	2015/01/16	08:45～ 12:15	院内教育(現任)	看護部	II	0	40	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的(仮)>OJTの中でプリセプターの役割が実践できる プリセプターの実践を通して自己の成長を感じることができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	平成27年度プリセプター予定者
プリセプター	2015/01/16	13:15～ 16:45	院内教育(現任)	看護部	II	0	40	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的(仮)>OJTの中でプリセプターの役割が実践できる プリセプターの実践を通して自己の成長を感じることができる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室	平成27年度プリセプター予定者
リーダーIII	2015/01/19	13:00～ 17:00	院内教育(現任)	看護部	IV	0	13	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的>固定チームナーシングにおいてリーダーシップを発揮する <目標>看護実践におけるリーダーシップ能力を高める 固定チームナーシングの目的や自己の役割について考えを深めることができる 職場内研修 活動報告会	病棟・中央診療棟 4階 第1会議室	ラダーレベルII認定済以上 現在、チームリーダーを担うもの、今後担う予定のもの
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/01/21	17:30～ 19:00	その他	看護部		0	55	2014/12/03 ～ 2015/01/22	看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの「勤務編成の基準」前半	中央診療棟 3階大ホール	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/01/22	17:30～ 19:15	その他	看護部		0	39	2014/12/03 ～ 2015/01/22	看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの「勤務編成の基準」後半	中央診療棟 3階大ホール	
多重課題	2015/01/24		院内教育(新人)	看護部	I	0	55	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的>看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考え、実施できる <目標>多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる 内容: 部署別多重課題シナリオによる部署単位シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟1階 臨床シミュレーションセンター研修室III 西棟2階 看護学部 模擬病室	平成26年度採用職員
マネジメント(外部講師)	2015/01/25	09:30～ 16:30	院内教育(現任)	看護部		0	25	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的>管理的視点で、自部署の問題解決ができる 問題解決を通して自己の役割を果たすことができる	病棟・中央診療棟3階 大ホール	各部署でリーダー的役割を担うもの
指導者II	2015/01/27	08:45～ 12:45	院内教育(現任)	看護部	III	0	16	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的>人材育成能力を養うことができる 人を育てることで、喜びを感じることができる <目標> 成人学習を支援するためのコーチングスキルを身につけ、実践に活かすことができる 動機づけ理論を活用し、指導場面の演習、リフレクションを通して、承認スキルを向上できる	病棟・中央診療棟 4階 第1会議室	ラダーレベルII認定済のもの

2014年度別研修一覧

研修名	日程	時間帯	種類	主催	必須 タグ	人数	参加人数	受付期間	テーマ	会場・場所	参加条件
多重課題	2015/01/31		院内教育(新人)	看護部	I	0	55	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的>看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考え、実施できる <目標>多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる 内容：部署別多重課題シナリオによる部署単位シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟1階 臨床シミュレーションセンター研修室III 西棟2階 看護学部模擬病室	平成26年度採用職員
他部署・他職種研修	2015/02/01		院内教育(現任)	看護部		0	12	2014/12/03 ～ 2014/12/19	<目的>関連部署や他職種の役割及び業務を知り、多角的視野を養い、実践に活かす 他部署・他職種(他部門)との双方コミュニケーション力の向上及びチーム医療(連携)の充実を図る	各研修生の目標達成に必要な研修先を各自で設定	自己の役割を發揮するために、自ら参加を希望するもの 研修を通して、主体的に学び行動できるもの ※採用3年目以上、1部署1名以内
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/02/03	17:30～19:00	その他	看護部		0	14	2015/01/28 ～ 2015/02/06	一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理者の役割(前半)	2/3 書庫 2/6 3階大ホール	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/02/06	17:30～19:00	その他	看護部		0	14	2015/01/28 ～ 2015/02/06	一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理者の役割(前半)	2/3 書庫 2/6 3階大ホール	
多重課題	2015/02/08		院内教育(新人)	看護部	I	0	55	2014/12/03 ～ 2014/12/25	<目的>看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考え、実施できる <目標>多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる 内容：部署別多重課題シナリオによる部署単位シミュレーション研修	西棟1階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟1階 臨床シミュレーションセンター研修室III 西棟2階 看護学部模擬病室	平成26年度採用職員
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/02/09	17:30～19:00	その他	看護部		0	8	2015/01/28 ～ 2015/02/12	一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理者の役割(後半)	2/9 書庫 2/12 3階大ホール	
インターネット配信研修(日本看護協会)	2015/02/12	17:30～19:00	その他	看護部		0	8	2015/01/28 ～ 2015/02/12	一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理者の役割(後半)	2/9 書庫 2/12 3階大ホール	
フォローアップⅢ	2015/03/12	08:30～11:45	院内教育(新人)	看護部	I	0	49	2015/01/14 ～ 2015/02/20	目的：次年度に向けて自己の役割を見出し実践できる <目標>1 固定チームの中でのメンバーシップについて理解する 2. 1年目を振り返り、自己の成長を実感し、今後の課題を見出すことができる 講義、グループワーク	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	平成26年度新規採用者
フォローアップⅢ	2015/03/12	12:45～16:00	院内教育(新人)	看護部	I	0	49	2015/01/14 ～ 2015/02/20	目的：次年度に向けて自己の役割を見出し実践できる <目標>1 固定チームの中でのメンバーシップについて理解する 2. 1年目を振り返り、自己の成長を実感し、今後の課題を見出すことができる 講義、グループワーク	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	平成26年度新規採用者
主任研修	2015/03/15	12:45～17:00	管理者教育	看護部		0	16	2015/02/02 ～ 2015/02/20	自部署の看護の質を改善するために主任としての役割を果たすことができる	病棟・中央診療棟3階 大ホール	現在主任職にあるもの

# 1 医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院における医療に係る安全管理を推進するため、本指針を定める。

## 1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方

市立大学病院は、患者さんの貴重な生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で安全管理の徹底を図り、職員一人ひとりが患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。当院に勤務する全ての職員に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療安全活動を再認識させ、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針とする。

## 2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

本院の安全管理体制の確保及び推進のため、病院長を統括安全管理者、副病院長（安全管理担当）を安全管理指導者とする。また、医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理室を設置する。医療安全管理室は、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行う。

当院全体の医療安全管理について検討・審議を行う医療安全管理委員会、病院長から任命された各部門のリスクマネージャーを中心に活動する周知徹底機関としてリスクマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用についてはそれぞれ別に規程を設ける。

## 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1) 医療安全管理委員会は、予め作成した研修計画に従い 1 年に 2 回程度の全職員を対象とした医療安全管理のための研修を定期的実施する。
- 2) 研修は、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。
- 3) 職員は、研修が実施される際には、極力、受講するよう努めなくてはならない。
- 4) 病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。
- 5) 医療安全管理のための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等実施する。

#### 4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- 1) 医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネジメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。
- 2) インシデント・アクシデントの報告は、リスクマネジメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。
- 3) 報告された事例は、医療安全管理室でとりまとめ、医療安全管理委員会で事例の把握ならびに原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、リスクマネージャー会議やRMニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。
- 4) インシデント・アクシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

#### 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1) 医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく他の医療機関の支援を求めるものとする。
- 2) 患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。
- 3) 重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。
- 4) 対応した職員は、その事実および説明内容を診療録に記録する。

#### 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針

医療安全管理のための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。

#### 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

- 1) 患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。
- 2) 医療安全に関わる苦情や相談については、医療安全管理委員会やリスクマネー

ジャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。

#### 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全をより推進させるために、「リスクマネジメントマニュアル」は定期的（年1回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。

#### 9. 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

- 1) 本指針の内容は、医療安全管理委員会を通じて、全職員に周知徹底する。
- 2) 医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附 則

本指針は、平成19年12月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成23年4月14日から施行する。

附 則

本指針は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

本指針は、平成27年4月1日から施行する。

## 2 5 医療安全管理委員会設置要綱

### 1 設 置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、医療事故等の防止及び患者の安全確保を目的として、医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### 2 組 織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。
- (2) 委員長は、病院長とし、副委員長は、副病院長（安全管理担当）とする。
- (3) 委員長及び副委員長の任期は、病院長及び副病院長の任期と同じとする。
- (4) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
  - 一 病院部長会で選出された部長 2 名（内科系 1 名、外科系 1 名）
  - 二 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の講座単位とする。）及び中央部門から選出された教員 6 名 [内科系 2 名、外科系 2 名、中央部門 1 名、感染制御室 1 名]
  - 三 物品供給センター長（医療機器安全管理責任者）
  - 四 看護部部長
  - 五 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）
  - 六 医学部管理部長
  - 七 医療安全管理室副室長及び主幹（専従）
  - 八 外部有識者 2 名

### 3 議 事

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 安全管理体制の確保に関する事
- (2) 安全管理のための教育・研修に関する事
- (3) 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関する事
- (4) 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関する事
- (5) 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関する事
- (6) 医療事故等の公表に関する事
- (7) その他医療事故の防止に関する事

### 4 会 議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故ある時は、副委員長がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、委員 2 分の 1 以上の出席がなければ開くことができない。
- (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のものに出席を求め意見を聴くことができる。
- (5) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

### 5 庶 務

委員会の庶務は医療安全管理室において処理する。

### 6 その他

この要綱に定めるもののほか、事故防止に関して必要な事項は委員会において定める。

#### 附 則

- 1 この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 医療事故防止等検討委員会設置要綱は廃止する。

#### 附 則

この要綱は、平成 27 年 6 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

## 安全管理の体制確保のための職員研修の実績

(平成26年度)

研修区分	開催日	対象職員	参加人数	時間	内容
新規採用者研修	4/1	全職員	187名	6時間5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院長訓示・講話</li> <li>・ 医療倫理について</li> <li>・ 病院マネジメントについて (個人情報保護について)</li> <li>・ 医薬品の安全管理について</li> <li>・ 診療録管理について</li> <li>・ 保険診療について</li> <li>・ 防災計画について</li> </ul>
	4/2	全職員	182名	6時間10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接遇について</li> <li>・ 医療の安全対策について</li> <li>・ 院内感染対策について</li> </ul>
B L S 研修	4/23 4/30 5/7 5/21 6/12 7/29 8/26 9/8 9/26 10/8 10/29 11/7 1/23 2/4 2/18	看護職員	9名 9名 9名 8名 12名 9名 9名 19名 18名 15名 9名 4名 6名 4名 3名	1時間30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B L S の実際 (演習)</li> </ul>
安全管理研修Ⅱ	5/13 9/26	看護師 2年目	97名 95名	3時間 3時間30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護師としての倫理と責務 (講義)</li> <li>・ 看護の安全性とK Y T (講義)</li> <li>・ インシデントレポートK Y T (演習)</li> <li>・ 職場内研修 (5月～9月)</li> <li>・ 職場内研修発表会</li> </ul>

安全管理研修 I	5/19 5/26	新規看護 職員	98名	3時間00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで学ぼうKYT（講義）</li> <li>・4ラウンドKYT（演習）</li> </ul>
BLSインストラ クター研修	6/4 6/18 7/2 9/4	看護職員	6名 6名 6名 3名	1時間30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護部BLS研修の目的</li> <li>・成人教育について</li> <li>・看護部BLSコースの流れと指導の ポイント</li> </ul>
医療事故防止 講演会	7/2	全職員	507名	1時間	<p>テーマ:医療安全 Up-to-date～足し 算の医療安全の限界～</p> <p>講師:三重大学医学部附属病院 医療 安全・感染管理部 部長 兼児敏浩氏</p>
医薬品安全管 理における研 修会 麻薬講習会	7/15	全職員	121名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻薬の取り扱いについて 松尾薬剤師</li> <li>・フェンタニルを上手に使うには? 杉山薬剤師</li> </ul>
中途採用者研 修会	7/29	全中途採 用職員	15名 (資料確 認4 名)	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理（中沢副室長）</li> <li>・レポート報告について（高木主幹）</li> <li>・院内感染予防（若杉副室長、田上看 護師）</li> </ul>
新人BLS研 修	7/29 8/1	新規採用 看護職員	99名	1時間40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BLSの実際（演習）</li> <li>・コードブルーシステムについて</li> </ul>
静脈注射研修 I	8/7 8/8	看護師 1年目	98名	3時間15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈内注射実施における看護師の法 的責任（講義）</li> <li>・静脈注射に必要な知識と技術他（講 義）</li> <li>・側管ワンショット静脈注射（演習）</li> <li>・翼状針一時点滴（演習）</li> </ul>
危機管理研修 会	8/12	全職員	430名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重大事例報告会（医療安全管理室）</li> <li>・パネル討議（成田顧問弁護士、村上 室長、中沢副室長、戸澤副室長）</li> </ul>
静脈注射研修 II	10/6	看護師 2年目他	97名	2時間00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈穿刺のための血管のアッセメ ント</li> <li>・静脈穿刺における合併症</li> <li>・点滴静脈注射の穿刺と固定に使用す る医療機材（講義）</li> <li>・点滴静脈注射の実際（演習）</li> </ul>
緊急時の看護	12/1 12/2 12/4	看護師 2年目	97名	2時間00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署別シナリオによるシミュレーシ ョン研修</li> <li>・急変前徴候（キラーシンプトム）、</li> </ul>

	12/9 12/10 12/11 12/12 12/15 12/19				緊急時の対応 (2年目看護師所属の23部署)
第2回医療事故防止講演会	1/14	全職員	411名	1時間	テーマ：職員間コミュニケーション 講師：損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社 医療リスクマネジメント事業部 上席コンサルタント看護師 泉 泰子氏
中途採用者研修会	2/5	全中途採用職員	14名 (資料確認3名)	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理(戸澤副室長)</li> <li>レポート報告について(高木主幹)</li> <li>院内感染予防(中村室長、水野主査)</li> </ul>
第2回危機管理研修会	3/6	全職員	389名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事例報告会(医療安全管理室)</li> <li>術前中止薬と持参薬確認の重要性について(那須薬剤師)</li> </ul> 医療安全全国共同行動ワーキング活動報告会(各7グループの発表)
PICC院内講習会	3/23	医師	5名	1時間30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>上腕PICC法を安全かつ確実にを行うための手技の基本およびコツを習得する。主に、ニードルガイドを用いた上腕PICC法の手技を重点的に行う。</li> </ul>
体幹抑制帯の安全な使用方法の業者による講習会	3/24	医師・看護師	137名	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>体幹抑制帯の安全な使用方法の説明と演習</li> </ul>
安全管理リンクナース会①	7/18	看護師	31名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに 担当委員挨拶</li> <li>今年度の安全管理リンクナースに期待する事</li> <li>今年度の活動目標・計画について</li> <li>1) 転倒・転落事故対策の看護実践能力の向上</li> <li>2) 基準に則った注射時のダブルチェック</li> <li>グループワーク</li> <li>今年度の自部署の活動計画について</li> </ul>
安全管理リンクナース会②	9/19	看護師	31名	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>転倒・転落予防活動に関する委員会</li> </ul>

					活動状況説明 ・グループワーク 活動状況報告 自部署での振り返り ・グループ発表
安全管理リンクナース会③	12/22	看護師	30名	1時間	・はじめに ・転倒転落予防に関する部署別活動結果報告 ・今後の予定説明 ・グループ内情報交換
安全管理リンクナース会④	2/20	看護師	30名	2時間	・はじめに ・転倒転落に関する意識調査結果 ・16北マネジメント研修活動報告 ・グループ内情報交換、年間まとめ発表

平成 26 年度安全管理研修会・教育検討会

主催側	回数	参加数
安全管理主催	10 回	2,398 名
看護部安全管理リンクナース会	4 回	122 名
看護部主催	8 回	845 名
合 計	22 回	3,365 名

## I. 名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針

### 1 院内感染対策に関する基本的考え方

患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。

手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する。

また最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。

### 2 名古屋市立大学病院における感染を積極的に防止し、院内の衛生管理に万全を期するため、感染対策委員会を置く。【感染対策委員会規約】

### 3 院内感染対策のための病院職員に対する研修に関する基本方針

#### (1) 院内感染対策講演会の開催

毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。

(2) 毎年4月に、新規採用教職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。

(3) 毎年2回、本院への中途採用者に対して院内感染対策に関する研修を行う。

### 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

中央臨床検査部にて院内感染を疑わせる病原微生物を検出した場合又は医療現場にて院内感染の発生が疑われる場合には、担当医師及び看護師長へ報告する。報告を受けた担当医師は、感染制御室に対応について指示を受け、必要があれば、感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。また、時間外に緊急度の高い院内感染の発生が疑われる場合には、感染制御室員に対応について指示を受ける。

感染制御室は、当該事例について、感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策チーム会委員長に報告する。

### 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染発生を把握した場合には対応について感染制御室に指示を受ける。感染制御室は、緊急度に応じて対策について感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策チーム会委員長に相談し、対策を指示・実施する。病院職員及び関連する所属は、指示に基づいて感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。

6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、患者等からの申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧場所は医学部管理部病院事務課とする。(受付窓口：医学部管理部病院事務課)

7 その他の院内感染対策の推進のための基本方針は必要に応じて病院長が別に定める。

8 他医療施設職員等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、他の医療機関における感染対策整備の参考等としての申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧方法は他医療施設職員等の状況に応じ、医学部管理部病院事務課が対応する。

附 則

この指針は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 19 年 11 月 6 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 20 年 10 月 23 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 23 年 5 月 17 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 27 年 6 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

## 院内感染対策のための委員会等の開催状況

(平成 26 年度)

回数	開催日	主な議事
第 1 回	26 年 4 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成 26 年度新規感染対策委員紹介</li> <li>② 平成 26 年度院内感染対策のための指針の確認</li> <li>③ 平成 26 年 3 月分院内検査データについて</li> <li>④ 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>⑤ 平成 26 年 1～3 月分抗菌薬使用動向について</li> <li>⑥ 平成 25 年度針刺し・切創による血液・体液曝露の報告について</li> <li>⑦ 平成 26 年度第 1 回感染対策講演会開催について</li> <li>⑧ NCU インфекションセミナーについて</li> <li>⑨ 感染管理マニュアル改訂 (案) について</li> </ul>
第 2 回	26 年 5 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ テイコプラニンの推奨初期投与量案について</li> <li>④ 抗菌薬届出制の変更案について</li> <li>⑤ 平成 26 年度ワクチンスケジュールについて</li> <li>⑥ 平成 25 年度第 2 回感染対策講演会 e ラーニング受講状況</li> </ul>
第 3 回	26 年 6 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 5 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 第 1 回感染対策講演会 (6 月 4 日開催分) 出席状況・アンケート結果報告</li> <li>④ NCU インフェクションセミナーについて</li> <li>⑤ 感染対策防止加算連携活動について <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 感染防止対策連携共同カンファレンス報告</li> <li>2) 感染央市対策地域連携相互チェック等予定報告</li> </ul> </li> <li>⑥ 平成 26 年度手指衛生キャンペーン (案) について</li> <li>⑦ ICT ニュース第 12 号発行について</li> </ul>
第 4 回	26 年 7 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 6 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 4～6 月分抗菌薬使用動向について</li> <li>④ 感染防止対策加算連携活動について</li> </ul>
第 5 回	26 年 8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 7 月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 感染管理マニュアル改訂 (案) について</li> <li>④ 第 2 回感染対策講演会の日程について</li> <li>⑤ エボラ出血熱に関する情報提供</li> <li>⑥ ICT ニュース第 13 号発行</li> <li>⑦ 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定公共機関としての当院の新型インフルエンザマニュアルについて</li> <li>⑧ 第 1 回感染対策講演会 e ラーニング受講について</li> <li>⑨ NCU インフェクションセミナーについて</li> <li>⑩ 国公立大学附属病院感染対策協議会感染対策相互チェック日程</li> </ul>

第6回	26年9月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 8月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 職員インフルエンザワクチン接種について</li> <li>④ 入院患者インフルエンザワクチン接種について</li> <li>⑤ 感染管理マニュアル改訂（案）について</li> <li>⑥ 国立病院機構東名古屋病院からの通知文について</li> <li>⑦ 第2回感染対策講演会について</li> <li>⑧ 第1回感染対策講演会 eラーニング受講結果</li> <li>⑨ 感染防止対策加算連携活動 相互チェック結果報告</li> <li>⑩ 新型インフルエンザ重症患者受入れ時の体制について</li> <li>⑪ 9階南保菌調査経過報告</li> </ul>
第7回	26年10月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 9月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 7～9月分抗菌薬使用動向について</li> <li>④ ICT 定期ラウンド（上半期）報告</li> <li>⑤ 針刺し・切創による血液・体液曝露（上半期）報告</li> <li>⑥ 結核の入退院届に関する健康福祉局からの通知</li> <li>⑦ 感染管理マニュアル改訂（案）</li> <li>⑧ 9階南 CRE保菌調査報告</li> <li>⑨ 新型インフルエンザ重症患者受入れ時の体制について</li> <li>⑩ 国公立大学附属病院感染対策協議会総会について</li> </ul>
臨時	26年10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① エボラ出血熱疑例における医療機関の対応について</li> <li>② 疑例患者来院時の当院での対応</li> <li>④ 個人防護具の備蓄について</li> </ul>
第8回	26年11月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ エボラ出血熱疑患者対応マニュアル（暫定版）について</li> <li>④ 平成26年度愛知県新型インフルエンザ等対策総合訓練について</li> <li>⑤ ICTニュース第14号発行について</li> <li>⑥ 第2回感染対策講演会出席状況と eラーニング未受講者一覧表配布について</li> <li>⑦ 新型インフルエンザ重症患者受入れ時の体制について</li> <li>⑧ 抗菌薬届出制について</li> <li>⑨ 委託業者誤刺対策について</li> <li>⑩ 国公立大学附属病院感染対策相互チェックについて</li> <li>⑪ ビーフリードの使用について</li> </ul>
第9回	26年12月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 11月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 結核診断時申請書等について</li> <li>④ インフルエンザに伴う異常な行動に関する調査のお願いについて</li> <li>⑤ 第2回感染対策講演会 eラーニング未受講者一覧表配布について</li> <li>⑥ 愛知県新型インフルエンザ等対策総合訓練について</li> <li>⑦ 国公立大学附属病院感染対策相互チェックについて</li> <li>⑧ 小児フロアにおけるMBL産生菌の散発事例について</li> <li>⑨ 手指衛生キャンペーンカレンダーの配布について</li> </ul>

第10回	27年1月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 12月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 10～12月分抗菌薬使用動向について</li> <li>④ 安全管理ポケットマニュアル版の改訂について</li> <li>⑤ インフルエンザ院内発生状況報告</li> <li>⑥ 職員インフルエンザ予防投与（案）について</li> <li>⑦ インフルエンザ対策ポスター掲示について</li> <li>⑧ 第2回感染対策講演会 eラーニング受講結果について</li> <li>⑨ 平成26年度新型インフルエンザ等対策総合訓練について</li> <li>⑩ 平成26年度医療監視指摘事項について</li> </ul>
第11回	27年2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成27年1月分院内検査データについて</li> <li>② 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>③ 感染管理マニュアル改訂案について</li> <li>④ 第2回感染対策講演会出席状況報告</li> <li>⑤ NCU インфекションセミナー開催案内</li> <li>⑥ 新型インフルエンザ等特別措置法に係るワクチン特定接種登録について</li> </ul>
第12回	26年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2月分院内検査データについて</li> <li>② 平成25年（1～12月）微生物検査まとめ</li> <li>③ 平成25年（1～12月）薬剤耐性菌感染症報告</li> <li>④ 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について</li> <li>⑤ 感染管理マニュアル改訂案について</li> <li>⑤ ICT 定期ラウンド報告</li> <li>⑥ 感染対策講演会受講促進について</li> <li>⑦ 26年度感染対策委員会メンバーについて</li> </ul>

## ① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
(例)	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1	2014/4/3	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	医師・看護師	17	救急・OPE・集中治療部
2	2014/4/4	オリンパス サンダービート	講義	看護師	20	中央手術部
3	2014/4/4	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	11	救急・OPE・集中治療部
4	2014/4/4	エネルギーデバイス サンダービート	講義	看護師	20	中央手術部
5	2014/4/7	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	11	救急・OPE・集中治療部
6	2014/4/8	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	24	救急・OPE・集中治療部
7	2014/4/9	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	12	救急・OPE・集中治療部
8	2014/4/10	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	医師・看護師	9	救急・OPE・集中治療部
9	2014/4/11	オリンパス サンダービート	講義	看護師	14	中央手術部
10	2014/4/11	重症患者モニタリングシステム	講義・実技	看護師	21	救急・OPE・集中治療部
11	2014/4/18	移動式X線装置 Veradius Neo	講義	臨床工学技士	3	MEセンター
12	2014/4/21	新生児・小児科人工呼吸器 VN500	講義	看護師	6	NICU・GCU
13	2014/4/24	新生児・小児科人工呼吸器 VN500	講義	看護師	7	NICU・GCU
14	2014/4/24	新生児・小児科人工呼吸器 VN500	講義	臨床工学技士	9	MEセンター
15	2014/5/1	人工呼吸器 EvitaV300	講義	臨床工学技士	8	MEセンター
16	2014/5/21	超音波凝固切開装置 Sonicision	講義	看護師	24	中央手術部
17	2014/5/22	超音波凝固切開装置 ハーモニック ジェネレータGEN11	講義	看護師	17	中央手術部
18	2014/6/30	ELVeSレーザ1470	講義	看護師・臨床工学技士	18	中央手術部
19	2014/6/30	下肢静脈瘤血管内治療用レーザー(ダイオードレーザ)ELVeSレーザ	講義	看護師	27	中央手術部

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
20	2014/7/7	新生児・小児科人工呼吸器 VN500	講義	看護師	5	NICU・GCU
21	2014/7/25	ELVeSレーザ1470	講義	看護師	8	中央手術部
22	2014/8/5	植込み型除細動器(ICD)	講義	看護師	16	9南
23	2014/8/7	植込み型除細動器(ICD)	講義	看護師	8	9南
24	2014/8/7	ELVeSレーザ1470	講義	医師	1	心臓血管外科
25	2014/8/18	エアハット®特定加温装置 ベアーハガー	講義	看護師	20	中央手術部
26	2014/8/27	全自動免疫測定装置 HISCL-5000	講義	臨床検査技師	1	臨床検査部
27、28	2014/9/12、9/16	セーフラベルシステム500i(SLS)	講義	看護師	30	中央手術部
29	2014/9/18	オゾンエアクリアeZ-2000	講義	看護師	3	感染制御室
30	2014/9/24	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	臨床工学技士	5	MEセンター
31	2014/10/1	オゾンエアクリアeZ-2000	講義	臨床工学技士	5	MEセンター
32	2014/10/21	超音波手術器 ETHICON GEN11	講義	看護師	14	中央手術部
33	2014/10/23	超音波手術器 ETHICON GEN11	講義	臨床工学技士	4	MEセンター
34	2014/11/5	除細動器 TEC-8300シリーズ	講義	臨床工学技士	6	MEセンター
35	2014/11/17	アプリックススマート	講義	看護師	13	9南
36	2014/11/21	開放型保育器 インファウーマーi	講義	看護師	9	NICU・GCU
37	2014/11/25	開放型保育器 インファウーマーi	講義	看護師	8	NICU・GCU
38	2014/11/26	開放型保育器 インファウーマーi	講義	臨床工学技士	6	MEセンター
39	2015/1/28	植込み型ループレコーダー RevealXT	講義	臨床工学技士	5	MEセンター
40	2015/1/30	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	看護師	9	14南
41、42	2015/2/3、2/4	負荷シンチ用心電計	講義・実技	医師	2	中央放射線部

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
43	2015/2/4	耳鼻科ファイリングシステム	講義・実技	医師	18	耳鼻咽喉科
44	2015/2/6	人工呼吸器 Bipap Auto SV	講義	看護師	6	9南
45	2015/3/2	血管アクセラ用超音波診断装置 サイトライト5	講義・実技	医師	3	内分泌糖尿病内科
46	2015/3/12	RemB	講義	看護師	19	中央手術部
47	2015/3/12	Alair <sup>tm</sup> Bronchial Thermoplasty System	講義	医師	14	呼吸器・リウマチ・アレルギー内科
48	2015/3/13	ネーザルハイフロー(Venturiタイプ)	講義・実技	臨床工学技士	5	MEセンター
49	2015/3/17	スーパードップレックス	講義・実技	医師	1	形成外科外来
50	2015/3/18	RemB	講義	看護師・臨床工学技士	23	中央手術部
51	2015/3/18	サージトロン	講義	看護師・臨床工学技士	23	中央手術部
52	2015/3/20	ネーザルハイフロー(Venturiタイプ)	講義・実技	看護師	9	内視鏡部
53	2015/3/20	サージトロン	講義	看護師	4	中央手術部
54	2015/3/23	汎用超音波画像診断装置サイトライト5	講義・実技	医師	5	臨床シミュレーションセンター
55	2015/3/25	NUVASIVE M5神経モニターシステム	講義・実技	看護師	10	中央手術部
56	2015/8/26	超音波診断装置	講義・実技	医師	3	膠原病内科
57	2015/3/27	NUVASIVE M5神経モニターシステム	講義・実技	看護師	5	中央手術部
58	2015/3/27	心電計 ECG-2550	講義・実技	医師	15	心臓・腎高血圧内科
59、60	2015/3/27、3/30	ドルニエ ジェニモ	講義・実技	医師	8	泌尿器科
61	2015/3/30	超音波観測装置	講義・実技	医師	7	内視鏡部
62	2015/3/30	エドワーズライフサイエンス ビジランスII	講義・実技	医師	15	心臓・腎高血圧内科
63	2015/3/30	放射線治療装置 VARIAN社TrueBeam	講義・実技	診療放射線技師	4	中央放射線部

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2014/4/7	人工呼吸器 V-60	講義	看護師	12	12南
2	2014/4/14	人工呼吸器 e500、エビタ4、840	講義	看護師	6	ICU・CCU
3	2014/4/15	人工呼吸器 e500	講義	看護師	4	ICU・CCU
4	2014/4/17	人工呼吸器 E500	講義	看護師	13	15南
5	2014/4/21	補助循環装置 PCPS(MERA、マツケ)	講義・実技	医師・臨床工学技士	13	麻酔科
6	2014/4/22	補助循環装置 PCPS(MERA、マツケ)	講義・実技	医師・臨床工学技士	7	麻酔科
7	2014/4/22	高エネルギーX線発生装置(リアック・トモセラピー) 密封小線源放射線治療装置(RALS)	講義	診療放射線技師	28	中央放射線部
8	2014/4/23	人工呼吸器 E100M	講義	医師・看護師	6	救命救急センター
9	2014/4/23	人工呼吸器 E100M	講義	看護師	5	救命救急センター
10	2014/4/23	人工呼吸器 E100M	講義	看護師	11	15北
11	2014/4/24	人工呼吸器 E100M	講義	看護師	2	15北
12	2014/5/14	人工呼吸器 サイパップ	講義	看護師	6	NICU・GCU
13	2014/5/19	人工呼吸器 VN500	講義	看護師	4	NICU・GCU
14	2014/5/30	血液浄化療法	講義	臨床工学技士	8	MEセンター
15	2014/6/3	閉鎖式保育器 V-2100G、開放式保育器 V-505HL	講義	看護師	3	NICU・GCU
16	2014/6/12	人工呼吸器 SLE5000、ハミングV、ハミングX インファントフロー、サイパップ	講義	看護師	11	NICU・GCU、9N、9S
17	2014/6/16	人工呼吸器 VN500	講義	看護師	4	NICU・GCU
18	2014/6/16	人工呼吸器 ハミングX	講義	看護師	3	NICU・GCU
19	2014/6/17	人工呼吸器 エビタ4	講義	看護師	7	ICU・CCU
20	2014/6/17	人工呼吸器 V300	講義	看護師	7	ICU・CCU
21	2014/6/17	人工呼吸器 840	講義	看護師	7	ICU・CCU

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
22	2014/6/17	除細動器 XL	講義	看護師	7	ICU・CCU
23	2014/6/19	人工呼吸器 ハミングX	講義	看護師	2	NICU・GCU
24	2014/6/20	人工呼吸器 トリロジー	講義	看護師	10	16南
25	2014/6/23	人工呼吸器 ハミングV	講義	看護師	2	NICU・GCU
26	2014/6/26	人工呼吸器 ハミングV	講義	看護師	3	NICU・GCU
27	2014/7/14	人工呼吸器 SLE5000	講義	看護師	3	NICU・GCU
28	2014/7/24	人工呼吸器 SLE5000	講義	看護師	2	NICU・GCU
29	2014/8/13	人工心肺装置	講義	臨床工学技士	9	MEセンター
30	2014/8/19	人工呼吸器 V60	講義	看護師	9	ICU・CCU
31	2014/8/26	人工透析装置	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	5	人工透析部
32	2014/8/28	人工呼吸器 トリロジーO <sub>2</sub>	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
33	2014/9/3	人工呼吸器 V60	講義	看護師	10	16南
34	2014/9/4	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義	看護師	7	15南
35	2014/9/11	人工呼吸器 クリーンエア(VSシリーズ)	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
36	2014/9/11	人工呼吸器 クリーンエア(VSシリーズ)	講義・実技	看護師	16	9南
37	2014/10/14	人工呼吸器 トリロジー100、カフアシストE70	講義・実技	看護師	11	9北
38	2014/10/21	血液浄化療法 CHDF	講義	看護師	14	ICU・CCU
39	2014/10/21	補助循環装置 IABP	講義	看護師	14	ICU・CCU
40	2014/10/28	高エネルギーX線発生装置(リアック・トモセラピー) 密封小線源放射線治療装置(RALS)	講義	診療放射線技師	27	中央放射線部
41	2014/12/2	人工呼吸器 トリロジー100	講義・実技	看護師	9	11北
42	2014/12/2	人工呼吸器 トリロジー	講義・実技	看護師	10	11北

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
43	2014/12/3	人工呼吸器 トリロジー100	講義・実技	看護師	7	11北
44	2014/12/3	人工呼吸器 PB980	講義・実技	看護師	6	ICU・CCU
45	2014/12/5	人工呼吸器 PB980	講義・実技	医師・看護師	9	麻酔科・ICU・CCU
46	2014/12/5	閉鎖式保育器 ジラフオムニベッド	講義	看護師	3	NICU・GCU
47	2014/12/11	補助循環装置 ECMO装置	講義	看護師	11	NICU・GCU
48	2014/12/11	除細動器 ハートスタートXL	講義	看護師	14	中央手術部
49	2014/12/15	人工心肺装置	講義	看護師	21	中央手術部
50	2014/12/15	人工呼吸器 PB980	講義・実技	医師・看護師	10	麻酔科・ICU・CCU
51	2014/12/18	人工呼吸器 PB980	講義・実技	看護師	3	ICU・CCU
52	2014/12/19	補助循環装置 ECMO装置	講義	看護師	8	NICU・GCU
53	2015/1/9	人工呼吸器 ニューポートE-100	講義・実技	看護師	10	12南
54	2015/1/9	人工呼吸器 Bipap	講義・実技	看護師	4	10南
55	2015/1/13	人工呼吸器 トリロジー100	講義・実技	看護師	10	16南
56	2015/1/14	閉鎖型保育器	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
57	2015/1/15	人工呼吸器 サイパップ	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
58	2015/1/23	人工呼吸器 E500	講義・実技	看護師	15	14南
59	2015/1/28	補助循環装置 ECMO装置	講義	看護師	10	ICU・CCU
60	2015/1/29	補助循環装置 ECMO装置	講義	看護師	5	ICU・CCU
61	2015/2/12	補助循環装置 PCPS、IABP	講義	看護師	12	救命救急センター
62	2015/2/13	人工呼吸器 Bipap Auto SV	講義	看護師	7	9南
63	2015/2/17	補助循環装置 PCPS装置	講義・実技	看護師	5	ICU・CCU

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
64	2015/2/27	閉鎖型保育器ジラフ(開放変形機能付)	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
65	2015/3/5	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	臨床工学技士	9	ICU・CCU
66	2015/3/12	人工呼吸器 ベラビスタ	講義・実技	看護師	6	ICU・CCU
67	2015/3/13	人工呼吸器 ベラビスタ	講義・実技	看護師	8	ICU・CCU
68	2015/3/16	人工呼吸器 ベラビスタ	講義・実技	看護師	3	ICU・CCU
69	2015/3/19	血液浄化装置 KM9000	講義・実技	臨床工学技士	8	MEセンター
70	2015/3/26	人工呼吸器 E-100M	講義・実技	看護師	9	11南
71	2015/3/27	人工呼吸器 E-100M	講義・実技	看護師	3	11南

(注)1 「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置(AEDを除く)、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置です。

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2014/4/5	外来眼科機器全般・レーザー等・手術器具全般	講義・実技	医師	21	眼科
2	2014/4/9	スネアー(ポリペクトミー)	講義	医師・看護師	6	内視鏡部
3	2014/4/11	シリンジ・輸液・モニタ	講義・実技	看護師	33	看護部
4	2014/4/14	シリンジ・輸液・モニタ	講義・実技	看護師	65	看護部
5	2014/4/15	カフアシスト E70	講義・実技	医師・看護師	14	ICU・CCU
6	2014/4/30	カフアシスト E70	講義・実技	医師	6	麻酔科
7	2014/5/1	カフアシスト E70	講義・実技	医師	7	麻酔科
8	2014/5/15	経皮CO2モニター	講義	看護師	10	NICU・GCU

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
9	2014/5/22	超音波診断装置	講義・実技	医師・臨床工学技士	4	臨床工学室
10	2014/7/9	低圧持続吸引器	講義	臨床工学技士	6	MEセンター
11	2014/8/11	移動式X線装置	講義	臨床工学技士	7	MEセンター
12	2014/8/26	LESAC CO <sub>2</sub> -25	講義・実技	医師	7	皮膚科
13	2014/9/8	電動式低圧吸引器 トパーズ	講義	看護師	7	15南
14	2014/9/25	輸血・輸液加温システムレベル1ホットライン	講義	看護師	13	NICU・GCU
15	随時	レーザーその他眼科光学機器	講義	医師	8	眼科外来・病棟
16	2014/11/13	カンガルーポンプ	講義	看護師	4	8南
17	2014/11/27	セントラルモニタ・ベッドサイドモニタ	講義	看護師	5	外来化学療法部
18	2014/12/16	体外式ペースメーカー	講義	看護師	4	ICU・CCU
19	2015/1/13	開放型保育器	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
20	2015/2/10	消化器内視鏡	講義・実技	医師	31	内視鏡部
21	2015/2/18	人工臍臓 STG-55	講義	医師	9	麻酔科
22	2015/2/18	人工臍臓 STG-55	講義・実技	臨床工学技士	3	MEセンター
23	2015/2/19	人工臍臓 STG-55	講義	医師	3	麻酔科
24	2015/2/19	人工臍臓 STG-55	講義・実技	臨床工学技士	3	MEセンター
25	2015/2/27	近赤外線カメラHEMS	講義・実技	臨床工学技士	2	臨床工学室
26	2015/3/2	人工臍臓 STG-55	講義・実技	看護師	9	ICU・CCU
27	2015/3/4	顕微鏡 ZEISS PENTERO 800	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	38	形成外科
28	2015/3/4	V.A.C.治療システム	講義・実技	看護師	9	11北
29	2015/3/5	顕微鏡 ZEISS PENTERO 800	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	10	中央手術部

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
30	2015/3/5	人工臓器 STG-55	講義・実技	看護師	2	ICU・CCU
31	2015/3/6	顕微鏡 ライカ M525-F50	講義・実技	看護師	12	中央手術部
32	2015/3/6	V.A.C.治療システム	講義・実技	看護師	6	11北
33	2015/3/25	体温管理システム アークティックサン	講義・実技	医師・看護師	17	NICU・GCU